

同窓会報

No. **21**



豊橋技術科学大学



2004

最近の大学事情



豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問
学長 西 永 頌

新聞等で報道されていますように、本学をはじめ日本の国立大学は大きな変革の時を迎えています。この時にあたり、文部科学省が掲げている改革の三つの柱は次の通りです。第一は、大学の再編・統合で、本格的な少子化時代に入り、学生定員の縮小、大学数の圧縮、効率化など構造改革の一環としての大学改革です。第二は、法人化で、国立大学を政府機関から独立させ、法人として運営することにより大幅な自由度をあたえ、自らの意思で大学を変革しやすくするように誘導するという試みです。しかし、自由を与えるだけでなく、その結果が社会にとって良いものであったかどうかを第三者により厳しく評価する仕組みとの抱き合わせになっています。第三は、大学を競争的環境におくことにより、大学自らが努力するような仕組みを作り、優れた大学のみが生き残れるようにすることです。

再編・統合に関しましては、文部科学省から平成13年に本学にも強いアドバイスがあり、統合を真剣に検討し始めました。上述のような厳しい状況下で考えたとき、本学のように規模の小さい大学が10年－20年のスケールで、独立して存続出来るかどうかへの強い危惧があり、前号で述べましたように統合の相手先として名古屋大学、静岡大学－浜松医大の二案を選び先方との話し合いに入りました。その際、本学の基本的立場を明らかにする必要があり、三つの原則を立て名古屋大学と静岡大学との話し合いに臨み

ました。第一は、本学を独立部局として豊橋地区に置く、と言うもので、技術科学部および技術科学研究科（ともに仮称）のような学部、大学院として現在の天伯町に置く、と言うものです。第二は、統合の相手先大学は、本学を今後強化すると言う基本姿勢を持つ、と言うもので、第三は、今後も高専卒業生を主たる入学者とする、というものです。第三は、本学の設置目的ですので欠くことのできない原則ですが、高専に接続し、技術志向を持つ学生に科学を教え、技術科学教育を実現するという本学の目的が統合先大学工学部との違いをはっきり示す意味で重要です。

名古屋大学とはこの9月までで10回の検討委員会を開きました。そこでは、本学の三原則、豊橋部局の意義、名大側の統合に関する考え方が話し合われ、基本的な点での合意が得られました。その後、教養教育、共同研究、新しい教育・研究組織案等につき話し合いが行われています。静岡大学との話し合いでは、統合にどのようなメリットがあるかにつき2回ほど意見交換が行われています。今後、双方の話し合いを通して2案から1案を選び統合に向けて歩んで行く計画です。

次に法人化ですが、中期目標とそれに沿った中期計画の原案を作成し、9月末、文部科学省に提出しました。本学も、設立後、27年を迎えようとしており、そろそろ、今後10年先、20年先をみて学部課程、大学院専攻の見直しをする

時期になっています。現在、生命、福祉、バイオ、医薬など新しい産業分野が次々と生まれており、教育もこれに対応し変えてゆく必要があります。しかし、同時に、伝統的な基幹分野も重要で、その教育も欠くことが出来ません。これらを両立させるため、学部課程には伝統的分野を中心に JABEE の認定が取れるコースを置き、大学院には、基幹分野と同時に新しい分野の専攻を置くという形が合理的と考えられます。現在、このような考えのもとで検討を進めております。

第三の改革の柱としての、大学間の競争ですが、現在、この競争が激しさを増しています。代表的なものは文部科学省の 21 世紀 COE プログラムです。昨年度と今年度で各 5 分野（学際分野は両年度で共通）で募集があり、本学は 2 つのプロジェクトが採択になりました。この競争は非常に激しいもので、昨年度を例に取りますと、5 分野に応募した 163 大学のうち 113 大学はひとつもプロジェクトが認められず涙をのんだと言うすさまじいものです。その中で本学は 2 件採択されたのですから諸君の母校がいかに活躍しているかを認識していただきたいと思います。今年は、あいにく 2 件申請したものの両方とも涙をのみました。それでも 2 年を通して 2 件以上採択された大学は東海地方の国公立全大学で 13 件採択された名大を除き本学だけしかありません。今後、このような競争に勝ち抜いた大学だけが生き残ると言う極めて厳しい時代に入っていくことになります。

さらに、今年は文部科学省から新たに教育 COE と呼ばれる「特色ある大学教育支援プログラム」の募集がありました。これも激しい競争でしたが、本学は、実務訓練を中心にした提案を行い 664 件の応募の中から 80 件採択の一つに選ばれております。

本学は、ご承知のように高専からの学生を受け入れる大学として誕生しました。しかし、現在、高専生を 3 年次に受け入れる大学が非常に多くなり、それに加え、専攻科が各高専に設置されたため、本学は大きな影響を受けています。高専ではさらに専攻科の定員を増加することを計画しています。このままでは、5 年－10 年先には本学の 3 年次入学に対し欠員が出て不思議ではない状況にあります。欠員の出るような大学は、いかに優秀な教官と設備を持っていても生きては行けません。社会的役割が失われているのですから。この点、高専生を受け入れると言う使命のもと設立された本学は極めて困難な状況に置かれています。再編・統合、学内再編により本学を新しく作り変え、高専生に対し魅力を増すことによりこの困難を乗り切ると言うのが本学の戦略です。

そこで、同窓生の皆さんには今後本学を強力に応援していただくことをお願いしたいのです。具体的には同窓会の飛躍的強化です。強化とは組織率の向上であり、同窓会としての活動の活発化です。これを通し、本学をいろいろな面でバックアップしていただきたいのです。同窓生の代表の方には大学運営に参加していただくこともお願いしたいです。同窓生による奨学金制度の新設やスポーツ施設の充実などを通し財政的バックアップにも協力して頂けると非常に助かります。同時に大学としても同窓生の皆さんに何か役立つ企画をしたいと思います。たとえば東京など大都市に本学のサテライトオフィスを持ち、そこで夜間大学院博士コースを開くなど、同窓生へのサービスを強化することも考えたいと思います。

いずれにしても、教職員、在校生、同窓生が一丸となってこの難局を乗り切る必要があります。皆さんの積極的なご支援をお願いし、報告とさせていただきます。

文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」(教育 COE) 採択



副学長 (教育担当) 松 為 宏 幸

世界的教育研究拠点と位置付けられる「21世紀 COE プログラム」について本学から申請した2課題が昨年採択されましたが、その教育版として、高等教育活性化を促進し大学教育の質の改善に資する特色ある優れた取り組みを対象とする、「特色ある大学教育支援プログラム」(いわゆる教育 COE プログラム)の公募が本年度行なわれ、本学から申請した「社会のダイナミズムに連動する高等技術教育—実務訓練を柱として—」(申請代表者、清水良明教務委員会副委員長)が採択されました。本学が、昭和53年4月に最初の入学生を受け入れて以来、実証的「高等技術科学教育」を謳う我国最初の高等教育機関として幾多の人材を育成し社会に送り出して来た実績が評価されたものといえるでしょう。少子化時代を迎えて各大学間の生き残り競争が熾烈となっている現状で、本プログラムが優れた高等教育機関の選別として一般に認識されたため、国公立大学のみならず非常に多くの私立大学が応募することとなり、21世紀 COE プログラムの応募状況を大きく凌ぐ8.3倍と高い競争倍率になりました。

ご承知のように平成16年4月より全国立大学が法人化され各大学はそれぞれ個別の独立法人として運営されますが、平成16年から22年までの6年間にわたる大学独自の第1期中期目標・計画を策定し、その達成度について評価を受けることとなります。このような厳しい時代を迎えるにあたり。両 COE プラグラムの採択を受けたことは、本学が教育と研究の両面において極めて質の高い大学であることが公式に認定されたという点で非常に明るいニュースであると言えます。

H15年度の申請及び採択状況		
申請件数 (件)	採択状況 (件)	採択率 (%)
総合的取組に関するテーマ：139	北大、東大、九大等 16	11.5
教育課程の工夫改善に関するテーマ：243	本学 、名大、長岡技科大等 29	11.9
教育方法の工夫改善に関するテーマ：131	筑波大、岐阜大、京大等 14	10.7
学生の学習及び課外活動への支援の工夫改善に関するテーマ：58	熊本大、秋田県立大等 9	15.5
大学と地域・社会との連携の工夫改善に関するテーマ：92	福井大、佐賀大等 12	13.0
合計 664 件	合計 80 件	平均 12.0%

第1工学系

機械システム(旧エネルギー)工学系より

学内近況報告

機械システム工学系 柳田秀記

エネルギー工学系および機械システム工学系の卒業・修了生の皆様、お元気にお過ごしのことと期待を込めて推察致します。毎年似たような書き出しで始まりますが、先ずは系内の近況をご報告致します。

今年は教員の異動が多くありました。機器設計学講座で教授をしておられた竹園茂男先生が平成15年3月31日をもって定年によりご退官されました。同じく機器設計学講座で助教授をしておられた畔上秀幸先生が、平成15年4月1日より名古屋大学大学院情報科学研究科複雑系科学専攻へ教授としてご栄転されました。また、エネルギー変換工学講座で助手をしておられた山本和弘先生が、同じく名古屋大学大学院の工学研究科機械情報システム工学専攻へ助教授としてご栄転されました。そして、第三講座で助手をしておられた竹市嘉紀先生(正式には技術開発センターの所属)が同講座の講師に9月1日付で昇任されました。9月1日現在の教職員一覧を別表に示します。事務室におられた竹村圭子さんは会計課に異動となり、4月より非常勤で前田奈津子さんが働いておられます。なお、本年度から系長は高木先生、系長補佐は上村先生が務めておられます。

あまり関心がないかも知れませんが、平成15年の7月に国立大学を法人にするという法律が成立し、平成16年4月から本学を含め全国立大学の一つ一つが独立行政法人になることになりました。大学運営に民間企業の発想を取り入れるということのようですが、どのようなことになるのでしょうか?企業にお勤めの方々にはごく当たり前のことが、大学人には必ずしも当たり前ではなく、我々大学にいるものには意識改革が求められているようです。

就職状況は、昨年度から厳しさを増した感があります。就職担当(今年度は北村先生)の先生のご苦勞・ご心労は大変なようです。廊下で顔を合わせる度のため息とぼやきが漏れていました。こういうときは教授でなくてよかったと思いますね。北村先生のお骨折りの甲斐もあって、9月上旬現在で未定者が1,2名いるようですが、他の就職希望学生は全員が内定しております。

来年度以降、本学には大きな変化が訪れるかも知れませんが、無事に存続していけることを期待して、また、同窓生の方々のご健勝とご多幸を祈念して近況報告を終わりとします。

[第一講座：熱・流体工学講座]

教授：三田地紘史, 日比 昭, 北村健三
助教授：中川勝文, 柳田秀記, 鈴木孝司
助手：伊藤高啓, 山本高久

[第二講座：エネルギー変換工学講座]

教授：小沼義昭, 蒔田秀治, 高木章二(系長)
助教授：野田進, 鈴木新一
講師：内山直樹
助手：関下信正, 佐野滋則

[第三講座：機器設計学講座]

教授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター), 上村正雄
助教授：埜克己, 関東康祐
講師：竹市嘉紀
助手：感本広文
教務職員：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

[技 官] 徳増学, 神谷昌宏

[事 務] 前田奈津子, 野亦真理子

平成14年度就職先一覧

修 士	
相生精機	アイシン高丘
(株)アイビス	アスモ
(株)アプロ	(株)イシダ
いすゞ自動車	SMC
エヌエスケーパーナー	王子製紙
九州松下	キャノン
川重岐阜エンジニアリング	三洋電機
スズキ	ソニー EMS
中部	トヨタコミュニケーションシステム
豊田中央研究所	日揮
日設産業機器	ニデック
日本電産	日本特殊陶業
林テレンプ	日立金属
日立製作所	日立造船
本田技研	三菱自動車工業
武蔵精密	リコーテクノシステムズ
YEC	フジユニバース

学 部	
アイシン AW	アイホー
海上自衛隊	Sanko Precision
Sanyo	昭和アルミ
フジユニバース	マツダ
ユタカ技研	メイテック

退官教官より

機械システム工学系 竹園茂男

卒業生、修了生の皆さんお元気ですか。私は、本年3月停年によって、42年に亘る大学生生活に一応終止符を打ちました。

私は、昭和12年(1937年)11月7日、東京府東京市小石川区白山御殿町110番地に生まれました。今は東京にこのような地名はありません。当時日本の内地は、3府43県で、3府は東京府、京都府、大阪府でした。東京市は今の京都市や大阪市と同じように、普通の一つの市でしたが、昭和18年(1943年)首都防衛と府・市の二重的行政の解消のため、東京府と東京市を統合し、東京都が誕生しました。昭和22年、旧市内35区が23区になり、小石川区と本郷区は合併されて文京区と改名されました。この時、麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、浅草、本所、深川、の昔懐かしい区名は消えてしまいました。従って、私の生地は、東京都文京区白山〇丁目〇〇番地という無機質で味気の無い地名に変わってしまいました。

幼少の頃、紀元2600年の式典があり、東京の街には、花電車が走り、とても賑わったことを憶えています。小石川は、東京のど真ん中の住宅街でしたが、家の周りの道は、まだ未舗装で、舗装されていたのは、市電の通る道路やそれに連なる比較的広い道だけでした。住宅街を車が通る事は殆ど無く、路上で遊んでいる時など、たまに通った車の臭い(排気ガス)を嗅いで喜んでいたものです。

昭和16年(1941年)12月8日、日本軍が真珠湾を攻撃し、太平洋戦争が始まりました。朝からラジオがガンガンこれを報じ、家中に、街中にある種の興奮が巻き起こっていました。私は、戦時中のことで、幼稚園にも行かず、昭和19年4月国民学校(今の小学校)に入学し、昭和20年8月15日、小学校2年生の時、敗戦を迎えました。

話は飛びますが、20年後、私は、母校で学位を取得し、昭和41年4月岐阜大学に奉職、以来、同大学に6年、熊本大学に14年、そして本学に17年と、3大学に通算37年間勤務してきました。よく言えば、最近強調されている大学教員の流動化、に貢献したことになるのかも知れませんが、要するに、流れ者で、「転がる石は苔むさず」だったのかも知れません。それでも、それぞれ伝統の異なる大学で、いろんな事を学び経験しました。岐阜大学はリベラルな大学で若僧の助教授でも自由に研究することができましたし、熊本大学は古い伝統の有る落ち着いた雰囲気のある大学でした。そして本学は、赴任した当時(昭和61年4月)は、開学8年目で、未だ、若い活気に溢れた大学でした。人間、勤務地が変わると始めのうちは、新鮮な気持ちで勤務出来るので、1年が長く感じられます。が、5年、10年と経つと、段々とマンネリ化してきて、惰性に流されて生きるように成り勝ちです。そういう点で、

各地を転々とした事が、私にとってプラスになったのかなあ、とも思っています。

さて、本学に赴任して、2年目に早速学生の就職の世話役が回ってきました。当時はバブルの絶頂期で、今と異なり学生は飛ぶように売れました。今は残念ながら、何処の大学もそうですが、就職状況はあまり芳しくありません。其れもその筈、大学生の数は増加の一途をたどり、一方、求人数は激減していますから、当然の結果です。また、高校生(受験生)の数もますます減って来ていますから、大学は入学者集めが大変になっています。私学では、既に30%の大学が入学定員を割っています。いずれ数年先には、これが50%、60%と増えていきます。国立大学は、授業料が比較的低廉な為、定員を割っている大学は、今は少ない様ですが、これも時間の問題です。既に、大学院の方は、かなりの数の大学が入学定員を割っています。入学希望者が、かつての60%程度になったのですから、当然大学の規模も60%にしなければ、学生の質が維持できませんし、経営も成り立ちません。今後日本の大学は、大幅な統廃合が行われる事でしょう。ただ、これも、皆様ご存知のように、産業界では、10年以上も前から経験している事で、これから、遅れ馳せながら、いよいよ大学も再構築(リストラ)が始まるというだけの事です。本学も開学以来20数年が経ちます。そろそろ再構築の時期を迎えているようです。資本主義が長続きするのは、不景気が有るからだ、と言われていました。不景気の無い社会主義はとうの昔に殆ど滅びてしまいました。資本主義下では、不景気の時に、滅びる企業は滅んで、又新しい芽が出て成長して行くからです。大学もまた、滅びる大学は滅び、新しい大学が誕生して成長して行くのでしょうか。本学も、是非成長して行く大学になって欲しいものです。

私の講義を受けた初期の学生は、もう還暦を迎える年になっていますが、本学の卒業生、修了生は、未だ高々40歳台です。これからの成長・発展が期待出来ます。大いに勉強して、優れた能力と倫理感を身につけた自立した技術者になって下さい。決して社畜になってはいけません。自立した技術者は、たとえ今いる企業が潰れても、滅びることはありません。

最後に、卒業生、修了生の皆様の益々の発展を祈念して、筆を置きます。(2003.9.3記)

第1 工学系同窓会H14年度収支報告

収 入	
平成13年度からの繰越金	3,331,722
利 息	4,053
計	3,335,775
支 出	
会報印刷費	43,420
会報発送関連費	3,730
封筒(2000部)作成代	27,510
アルバイト代・謝金	42,000
事務用品・他	5,355
支出小計	122,015
H15年度への繰越金	3,213,760
計	3,335,775

研究室だより

流体工学研究室

機械システム工学専攻2年 小竹 譲

修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場にてご活躍されていることと存じます。

現在、流体工学研究室の中の日比研究室は、日比昭教授と昨年度着任されました伊藤高啓助手の下、修士課程6名、学部4名、韓国およびフランスからの留学生2名の計12名で構成されています。留学生も日毎に日本語が上手くなり、近頃では、英語でなくても会話ができるようになりつつあります。学生は、各人それぞれの個性を十分に発揮しており、学年の壁がないとても和やかな研究室です。

当研究室ではこれまで「油圧式自由ピストン内燃機関」、「アキシシャルピストンモータ」の大きく2つのグループから編成されていましたが、今年度より「流体界面における流体挙動」についての新たなグループが誕生しました。各学生は、所属するグループにて、個々のテーマに日夜取り組んでおります。

「油圧式自由ピストン内燃機関」に携わる学生は、現在製作中である新しい内燃機関をより高性能なシステムにするべく、既存の実験システムを用いて、各部の性能試験や改良部品の製作を行っています。

「アキシシャルピストンモータ」に携わる学生は、油圧モータの中のアキシシャルピストンモータについて、性能評価やさらなる高傾斜角を有したモータの開発を行っています。

「流体界面における流体挙動」に携わる学生は、伊藤高啓助手と共に、流体の挙動解析に必要な実験装置

の製作と計算機上での解析用プログラムの作成を行っています。

学部4年生は、研究室に配属されたばかりですが、個々の研究テーマに必要な専門分野の知識を習得するべく、日々勉学に励んでおり、その直向な姿勢にとっても良い刺激を受けています。

本研究室何の行事として、年に数回、流体工学研究室を構成する柳田研究室と共にコンパを開き、日頃の研究の労を労うと共にそれぞれの学生が親睦を深めています。

修了生・卒業生の皆様におかれましては、豊橋近隣にお越しの際は研究室へお立ち寄りくださり、激励、ご助言くだされば幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。



燃焼工学研究室

機械システム工学専攻修士1年 濱野直也

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様がそれぞれの職場にて大いにご活躍なされていることと存じます。

現在の本研究室は、野田進助教授を中心として、修士4名、学部3名、留学生1名、企業からの共同研究者1名にて日々研究へと取り組んでおります。また、

今年12月にて新たに1名の留学生が加わることも決定いたしました。小規模ではありますが、それぞれの個性を生かした研究室であります。次に、そんな私達が取り組んでいる研究テーマを紹介いたします。

(1) レイリー・ラマン散乱法による乱流拡散火炎の火炎構造に関する研究

- (2) 高温空気燃焼の火炎構造に関する研究
- (3) 高温空気燃焼の炉内流動の解析
- (4) スカラー確率密度関数法のモンテカルロ解法に関する検討
- (5) 拡散火炎構造への火炎伸張効果の数値解析

(1), (4), (5) に関しては昨年度より引き継いだ研究ではありますが, (2), (3) に関しては昨年度より始まった企業との共同研究の新たな研究テーマであります。このような研究テーマにおいて, 研究室一同, それぞれの燃焼現象について好奇心を持ち精力的に取り組んでおります。また, 定期的なゼミを開くことで, 学生一同の専門知識の更なる習得を目指しております。

卒業生・修了生の皆様におかれましては, 豊橋にお越しの際は, お気軽に是非本研究室へお立ち寄り下さい。皆様の在学中のお話しや, 卒業・終了後の貴重な

体験などをお話しいただければ光栄です。研究室一同, 心よりお待ちしております。最後になりましたが, 諸先輩方の今後の更なるご活躍・ご発展を心よりお祈りいたしまして近況報告とさせていただきます。



計算力学研究室の近況

機械システム工学専攻修士2年 吉岡 宏 樹

卒業生, 修了生の皆様, いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては, それぞれの職場において大いに活躍のことと存じます。

さて, 本研究室の近況についてご報告します。現在, 関東康裕助教授の下, 修士2年生2名, 1年生4名(英語コース2名), 学部4年生3名, 計9名で構成されています。そのうち, 修士1年生にはインドネシアからの留学生が2名います。やや少人数ではありますが, 各個人の個性が強く, それでいて, みんな仲良く, 多くの会話が飛び交う和やかな研究室です。また, 研究に対する熱意と努力も十分です。そんな私たちが現在取り組んでいる研究テーマを大別すると次の3項目になります。

- (1) 大規模疲労き裂進展解析
- (2) 確率論的破壊力学システム
- (3) 触覚表示システムの構築

(1) については, 大規模な解析を行うため, パソコンを十数台並列につないだPCクラスタを構築し解析の速度UPを図っています。現在では, 新たなPCクラスタを構築しており解析速度はさらに高速化されてきています。また, フリーメッシュ法と呼ばれる要素情報を必要としない有限要素法を用いた研究も行っています。(2) については, オブジェクト指向設計やコンポーネントプログラミングなどの技術を取り入れ

て, 破壊確率解析などのシステムを構築しています。(3) については, Web閲覧のための触覚型触覚ディスプレイに加え新たな触覚表示システムを開発しています。主に製作に必要な機械特性や, ディスプレイ表示方法の検討を行っています。

研究室の行事では, 新入生歓迎会から卒業生, 修了生の追い出し会まで, 1年を通して多くの宴会があり, 日ごろの疲れを癒しています。また夏休みには, 川辺や海辺でのバーベキューや釣りをを行う研究室行事があり, 学生はもちろん先生もいっぱい楽しんでます。

卒業生, 修了生の皆様におかれましては, 豊橋へお越しの際は是非本研究室へお立ち寄り頂きまして, ご助言等いただけましたら光栄です。

最後になりましたが, 諸先輩方の今後の更なるご躍進, ご発展をまたご健康を心よりお祈り申し上げます。



第2工学系

豊友会

-for you-

(生産システム工学系同窓会会報)

変革に向かって

生産システム工学系系長 堀内 幸

卒業生、修了生の皆さん、こんにちは。お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。



昨年、生産システム工学課程は、「機械および機械関連分野」でJABEEの試行審査を受けました。審査の結果、①教育研究環境はきわめて良好であり研究教育のポテンシャルが高いこと、②学生が真摯かつ熱心に勉学に取り組んでいること、③卒業生が自信を持って仕事に打ち込み充実した生活をしていること、などが高く評価されました。しかし、④授業科目間の関連を明確にして学生にもわかりやすいものにする、⑤機械工学基礎科目の講義内容のバランス調整をとること、⑥生産システム工学（ものづくり）が我が国の基幹技術であるので21世紀のものづくりを支える人材の育成がどうあるべきかについて深慮し特色ある教育プログラムを鮮明に打ち出すこと、などの指摘を受けました。

これらの結果を参考にして、現在、改善に取り組むとともに、来年の本審査に向けて準備を進めております。

ところで、本学も来年度から法人化される予定で、現在、いろいろな面で準備を進めています。大学間の競争が厳しくなり、今まで以上に本学の特色を強化するとともに産学官の連携などを推進しなければなりません。また、他大学との統合についても継続的に検討されています。このように複雑な状況のもとで、学内再編の話もあり、JABEE本審査も含めて、いったい、どこから手をつけてよいのか判断に苦しんでいるというのが正直なところです。いずれにしても、ここ数年の間に、かなりの変革が起こることは間違いないでしょう。

しかし大学である限りは、教育と研究に専念し優れた人材を世に送り出す使命は変わりません。在学生諸君もわれわれ教官も、この使命を果たすべく一層努力するつもりです。

学内近況報告

材料保証学研究室 戸田 裕之

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。各職場で御活躍のことと思います。現在、系長を務められている堀内先生を中心に、教職員一同、研究、教育に励

んでおります。系としては、入学、就職状況も例年通り良好のようです。これらはひとえに皆様の御活躍があつてのことと思います。

さて、教職員の移動につきまして簡単に御報告いたします。昨年号以降、2系では比較的転出・新任の教職員が少なく落ち着いた日々が続きました。まず、平成15年3月にGunawarman助手（医療福祉工学研究室）が辞職され、インドネシアのアンダラス大学・機械工学科の助教授として母国に戻られました。また、4月には鈴木浩文助教授（精密加工研究室）が神戸大学工学部に転出されました。同じ4月には、樋野励講師（システム創製研究室）が神戸大学より着任されました。8月には、矢野賢一（システム制御研究室）助手がドイツのベルリン工科大学への1年間の留学から戻られました。10月には原田泰典助手（塑性加工研究室）が姫路工業大学工学部に転出されました。12月には王磊助教授（材料保証学研究室）が辞職され、中国東北大学工学部の教授として母国に戻られました。その他の当系の近況につきましては、下記ホームページ（<http://plast.tutpse.tut.ac.jp/pse/>）で随時報告しておりますので御覧下さい。

末筆ながら、皆様の御健康と益々のご発展を御祈念いたすとともに、近くへお越しの際には大学にお立ち寄り下さり、近況等お話し下さるようお願い申し上げます。

[材料工学講座]

教 授：川上正博（工作センター長）、梅本 実
助教授・講師：竹中俊英、土谷浩一、戸田裕之、横山誠二
助手・教務職員：戸高義一（工作センター）、森田繁樹

[生産計画学講座]

教 授：清水良明、寺嶋一彦
助教授・講師：三宅哲夫、堀畑 聡、樋野 励、三好孝典
助 手：柳 在圭、矢野 賢一

[加工学講座]

教 授：堀内 宰、森謙一郎、福本昌宏（系長補佐）
助教授・講師：牧清二郎、安井利明（工作センター）
助 手・技 官：澁谷秀雄、小楠和彦、椿 正己

[系共通研究室]

教 授：新家光雄
助 手：赤堀俊和

着任のご挨拶

生産システム工学系講師 樋 野 励

本年度より、生産システム工学系の講師として着任しました樋野励です。5年間の企業での職務を経て、1995年から大学での研究と教育にたずさわることになりました。企業に勤務している際には、超精密切削加工や研磨加工といった実際に機械を動かしてものをつくる技術の開発・研究を行っていましたが、現在はスケジューリングや工程設計などの物づくりに関する諸問題を対象としたどちらかというとソフトウェア的な研究を中心に行っています。



工場で用いられる工作機械などの生産設備は、そのほとんどがコンピュータによって制御されています。特に最近では、あらかじめ決められた動作を単に忠実に繰り返し実行するだけでなく、状況に応じて振舞を変

えることが望まれています。また、工作機械もインターネットに代表されるネットワーク網に接続され、相互に情報を参照することができる環境が整いつつあります。

私は、このような技術を利用して、工作機械の自律化という研究テーマに取り組んでいます。いろいろな事柄を考慮に入れながら、研究を進める必要があります。そのとき機械同士のコミュニケーションをうまくするために、人間同士の意志疎通の仕方に学ぶことが多くあるのですが、逆に自分の情報伝達のあり方に考え直させられることも多々あります。

研究を進めることで、対象としていること以外に学ぶことが多くあります。研究成果や経験を教育に活かし頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

最近の研究

これからのロボット

—人間協調・共存型ロボット、そして鉄腕アトム—



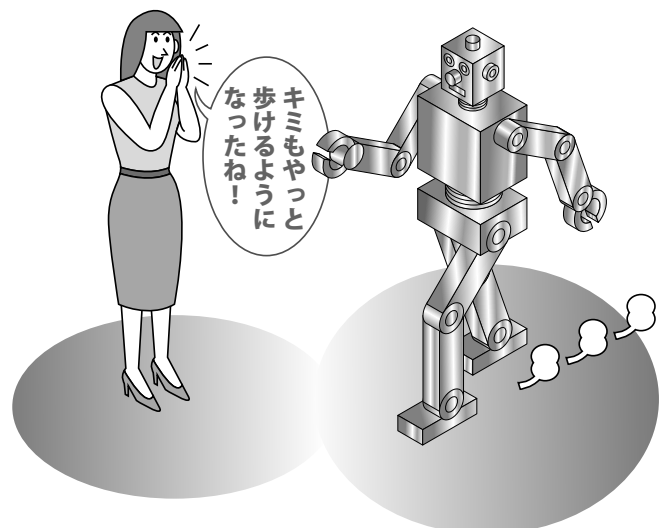
生産システム工学系 寺嶋 一彦

ロボット発展の歴史と日本の産業ロボット:

ロボットという言葉は、1920年にチェコの劇作家カレル・チャペルが戯曲「ロッサム万能ロボット製造会社RUR」のなかで人造人間を意味するロボットという言葉を紹介したのが始まりです。1954年に、アメリカのジョージ・C・Dが特許を出願し、教示 (teaching) と再生 (playback) により物をおいたり、つかんだりするプレイバックロボットの概念を発表しました。1962年にアメリカのユニメイト社やAMF社がプレイバックロボットの実用第1号機を販売開始しました。日本の産業ロボットの開発と実用化が開始されたのは1967年頃からです。しかし、日本において本格的に産業ロボットが注目されたのは1980年に入ってからで、1980年は「ロボット普及元年」と呼ばれています。1950年代、自動車工場においてライン方式のオートメーション (自動化) による単一品種の大量生産方式はモノづくりの効率化に成功しました。ところが、人の好みや要求は多種多様となり、また経費節約のために同じラインで多品種の製品を製造する必要が増加してきました。単一品種大量生産時代から多種少量生産の時代に移行して行く中で、1980年代は、FA (Factory Automation; 工場自動化), FMS (Flexible Manufacturing System; フレキシブル製造システム) といった新しい生産システムが生み出されました。産業用ロボットは従来の自動機械に比べて汎用性が高く、新しい生産システムのスター的存在として発展しました。ロボット産業は、製造産業でのモノづくりに貢献してきています。日本のロボットの保有稼働台数は、1998年末で41万台 (世界ロボット連盟) と世界の約6割を占め世界一のロボット王国です。

ロボットの定義: 産業用ロボットの定義は (JIS) は、「自動制御によるマニピュレーション機能または移動機能を持ち、各種の作業をプログラムによって実行でき、産業に使用される機械」とされています。人間の知能にあたるのがコンピュータによる情報処理、人間の腕がロボットのアーム、手がグリップや多指ハンド、筋肉がモータなどのアクチュエータ、足が車輪などによる移動機構です。人間の感覚に相当するものは、センサと呼ばれ、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚センサがあり、視覚はロボットではカメラです。人間は、目でものを見、手の触覚でものの表面状況を推測し、耳で言葉を理解し、また音源の位置や方向を推測します。それらの各情報が神経細胞を通して脳に送られ、脳で外界、内界の状況判断を行います。そして行動の意思決定を行い、必要なときには腕や手を動かし運動の制御を行い、目的に応じた行動を実行しています。ロボットの研究をすればするほど、人間の感覚器官や運動器官、知能の優秀さが再認識され、ロボット研究は人間研究につながります。

これからのロボット: 今までの産業ロボットは、人間と隔離された環境の中で、高速・高精度を要求する単純作業を行ってきました。複雑作業はロボットより人間がよいというのが常識でした。ところが、1998年、通産省「人間協調・共存型ロボット」の開発プロジェクトが開始されました。この背景には様々な社会情勢の変化があります。多種・少量生産



では、迅速に、そして柔軟に生産システムに対応する必要があります。それには、ロボットも固定した状態で使うのではなく、自由に移動し作業することが望まれます。さらに、最近、ライン生産方式でなく、多くのセル（屋台）を工場内に設け、各々の屋台の中で一人の人間が責任を持ちモノづくりを行うセル生産方式が、多種少量生産や労働者意欲の向上・活性化に適した方式として注目を浴びています。この方式では、ロボットが自由に移動でき、人間と共存した空間で、しかも協調して人間の作業補助ができる知能ロボットが必要です。また、グローバル化されてきた今日、遠隔地から工場の監視・診断、および操作をしてモノづくりをする必要が生じてきました。広い範囲の環境の変化を認識でき、それに基づき、迅速かつ適切な行動が確実にできる知能化されたロボットは、安全性・信頼性・コストの問題で実用化に多くの問題があります。したがって、遠隔地から人間が、モニタを通してロボットの監視を行い、さらにリモコンなどでロボットの行動を人間（マスタ）が操作し、遠隔工場内のロボット（スレーブ）が、その指令に従い忠実に動作するというマスタ・スレーブの制御方式が必要になってきます。しかし人間も誤動作を起こすので、スレーブ側でもある程度の自律性を持たせ、人間とロボットが協調して仕事をすることが必要になってきます。制御する場所に、人間が介在し、またロボットが役割を分担しているので、人間共存型、人間協調型などと呼びます。マスタ・スレーブ方式によるスレーブロボットは、遠隔手術などにも利用できます。一方、製造業などでは、微小工業用品の加工、組み立てを行うためのマイクロファクトリー技術にマスタ・スレーブ技術を利用できます。高齢化社会が進んできている現在、高齢者も工場で働き労働形態を改善させる人間支援ロボットが必要になってきています。例えば、モノを組み立てる場合、所定の場所までは人間がロボットハンドを持ち誘導し、位置決め、組み立てなど精度を要す



図1
擬人化ロボットハンドによる
熟練マッサージ運動の制御



図2
全方向移動型電動車椅子
(完全自動、搭乗者操作支援、介助者
パワーアシストの3モード付き)



図3
遠隔操作可能なマスタ・スレーブ方式
による上肢リハビリロボット

る部分はロボットが単独で行うなど、人間とロボットを役割分担し、人間に協調させるロボットです。これは、一般労働者にも労働負担を軽減させることができる操作支援型の生産システムです。ロボット技術の今後の課題としては、ロボットの自律化（完全自動化・知能化）は勿論のこと、むしろ近未来の実用化に必要な技術としては、遠隔操作、人間ロボット協調、操作支援のマン・マシンシステムがキーワードです。

ロボットの今後注目すべき応用分野としては、医療・福祉分野があります。福祉分野では、身体障害者や寝たきり老人の日常生活の介助・看護支援や、手足などが不自由な身体障害者に対する車椅子による歩行支援、および社会参加支援を行うリハビリロボット、食事支援ロボットなどがあります。例として、現在、著者の研究室で研究しているロボットを紹介します。図1は擬人化多指ハンドロボットによる熟練マッサージ運動制御です。人間のような複雑な動作が自由にできるロボットハンド開発を目指しています。図2は全方向移動型電動車椅子で、完全自動、搭乗者の操作支援、介助者用パワーアシストの3つの機能を有しています。図3はマスタ・スレーブによる遠隔操作が可能な上肢リハビリロボットです。在宅患者が病院からの先生の指示に従いリハビリ訓練を行うこともできます。このほかに注目すべき応用分野としては、農業、メンテナンス分野、災害救援分野、ホームオートメーション、宇宙分野、また個人のエンターテインメント・アミューズメント分野などにもロボットの普及が期待されます。こうした流れの中で、ホンダロボットP3に代表されるヒューマノイド（人間型）2足歩行ロボットがあります。鉄腕アトムに着実に近づきつつあり、鉄腕アトムも単なる夢物語ではなくなってきました。人間の探求心の追求、技術シーズの発掘という意味で魅力あるロボット開発分野です。

ロボットの倫理：最後に、ロボット研究・開発は夢のあるものですが、忘れてはいけないものが人間とロボットの関係です。ロボットにはアシモフの3原則（1950年）というのがあります。要約しますと、①ロボットは人間に危害を加えてはならない。また、人間に危害が及ぶのを見逃してはならない。②ロボットは人間から与えられた命令に服従しなければならない。③ロボットは、①及び②に反しない限り自身を守らなければならないです。人間協調、共存型ロボットの開発は魅力あるものですが、上の3原則にあるように、安心・安全な技術を確立していくことが大切です。ロボットや工学が人類に幸福をもたらすためであることを考えれば、各応用分野での目的を考え、それにふさわしい機能や能力を持ったロボットや機器を考案することが大切でしょう。興味を持たれた方は、私共、システム制御研究室のホームページ <http://www.procon.tutpse.tut.ac.jp> をご覧ください。（天伯112号より引用しました。）

研究室だより

システム制御（旧工程制御）研究室の近況報告

生産計画学講座 助手 矢野 賢一

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？現在研究室は、寺嶋教授を中心として、本学修士課程でもある三好講師と私、2名の秘書のスタッフと博士課程4名、修士課程17名、学部4年生6名の計32名で構成されています。研究テーマとしては、「ロボティクスとオートメーション」を軸に、「人に優しい制振制御技術の開発」と「機械と人間の共生・共存を考慮したインテリジェント制御システムの構築」を目指し、研究に取り組んでいます。また21世紀COEプロジェクト(Intelligent Human Sensing)や都市エリア産学官連携促進事業(ヒューマンセンサの開発と感覚フィードバックによる運動制御)にも参加し、研究を推進しています。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。<http://www.procon.tutpse.tut.ac.jp>

1978年に初めて研究室配属された4年生を1期生としますと現在の学部4年生は25期生となります。その間に、システム制御(工程制御)研究室の同窓生は、現在までに博士卒6名、修士卒107名、学部卒33名の計146名を数えました。そして平成15年9月27日に、第7回システム制御研究室同窓会がホテルアソシアにて開催され、33名の同窓生(教職員を含む)と27名の現役学生の方が出席されました。同窓会では、坂野先生の80歳の誕生日と野村先生の還暦のお祝いするとともに、多くの同窓生の方々にお話しをいただきました。その中でも、1996年修了の谷口則之さんからは、現役当時と変わらぬ熱いトークもしていただき、大変盛り上がりました。今回参加していただ

きました皆様にはお礼を申し上げますとともに、3年後再びお会いできることを楽しみにしております。また、今回仕事などの都合で参加できなかった皆様も、3年後の次回は是非ご参加下さい。



塑性加工研究室の近況報告

加工学講座 博士2年 安部 洋平

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

塑性加工研究室のスタッフは、森教授、牧助教授、原田助手の3名でしたが、原田先生がこの10月に姫路工業大学の助教授へ転任され、現在、2人となっています。学生は、博士課程2名、修士課程2年生6名、1年生9名、学部4年生6名の計23名です。このうち、博士課程に社会人1名、修士課程1年生に中国からの留学生1名が含まれています。

本研究室では、自動車用部品のプレス成形、パイプ

のハイドロフォーミング、チタン板の冷間絞り加工、プラスチックダイスを用いた深絞り加工、通電過熱を利用した半溶融鍛造、微細ショットピーニング、ショットピーニングによるライニングなど従来の金属加工のテーマのみならず、セラミックス焼結のマイクロマクロシミュレーション、セラミックスの铸込み成形など幅広い分野を研究しています。また、成形シミュレーションを高速に計算するために並列計算技術の開発などにも近年取り組んでいます。ほとんどが産学連携研究であり、産業界の強いニーズを背景にして研究

を行っています。

研究以外にも、新入生歓迎会、マインドストームによるロボット大会、バーベキューや忘年会などのイベントを行い、そのときばかりは日頃研究疲れを一掃し、大いに盛り上がりしております。特に、今年は餃子大会を行い全員で800個の餃子を食べました。写真は雨にもかかわらず大いに食べて楽しんだバーベキューのときに撮ったものです。

最近の卒業生は、在学中の成果を十分発揮できる自動車メーカーやその部品メーカーに多く就職しています。

研究室の近況、研究成果等の詳しい情報は研究室のホームページ (<http://plast.tutpse.tut.ac.jp/>) に記載されていますので一度是非ご覧ください。最後になり

ましたが、卒業生の皆様のご活躍を心から願うと共に、今後も研究室の暖かくご支援くださるようお願い申し上げます。



製錬工学研究室の近況報告

材料工学講座 修士2年 三品 雅也

卒業生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか。社会人としての自覚を持ち、それぞれの職場でご活躍されていることと思います。

現在、製錬工学研究室では、川上教授、竹中助教授、横山講師のスタッフと、博士課程の学生1名、修士課程の学生11名、学部4年生6名の総勢21名で研究活動を行っています。

本研究室は、炭素グループ、熔融塩グループ、メカノケミカルグループの3つで構成されています。特に今年度は、企業との共同研究や新しい実験の立ち上げを行うなど、積極的な研究を行っています。研究室の近況、研究内容などの詳しい情報は、下記の研究室の

研究室ホームページに記載されていますので、一度御覧ください。

<http://seiren.tutpse.tut.ac.jp/>

研究室のレクリエーションは、新歓コンパ、夏のバーベキュー、忘年会、新年会、追い出しコンパなどを行っています。今後も伝統の行事に新しい行事を随時プラスしていく予定です。このように、本研究室は研究やレクリエーションに力をいれ、常に良い雰囲気になっています。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も製錬工学研究室を暖かくご支援下さるようお願い申し上げます。

豊友会事務局から

平成14年度収支報告

収入の部

前年度繰越金	2,406,903
会費（各系分配金）	600,000
普通預金利息	71
収入合計	3,006,974

支出の部

会報発送総会案内作業代	38,162
会報および総会案内発送代	197,140
名簿更新作業代	3,000
次年度繰越	2,768,672
支出合計	3,006,974

豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
 豊橋技術科学大学 生産システム工学系内
 FAX: 0532-44-6690
 E-mail: admin-2@tut-ob.org
 Home page: <http://www.tut-ob.org/>

代表	澁谷 秀雄
会計担当	赤堀 俊和
会報担当	森田 繁樹
名簿担当	赤堀 俊和
ホームページ担当	戸高 義一
委員	矢野 賢一

第3・4工学系

電気・電子工学系／情報工学系より

電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

電気・電子工学系

澤田和明

修了生、卒業生のみなさん、ますますご活躍のことと思います。冷夏の影響も重なり、景気の回復はほど遠い感がありますが、3系の就職状況は順調で、これも修了生、卒業生のみなさんの、ご活躍の賜であると思っております。

さて、電気・電子工学系では平成15年3月に電気システム大講座助手であった村本裕二先生が名城大学にお移りになられ、電気システム大講座助手の伊藤衡平先生も技科大を去られ九州大学に移られました。また次の2名の先生方を技科大にお迎えしました。電気システム大講座の助手として村上義信先生、同大講座教務職員として桶真一郎先生が就任されました。更に、内田裕久先生が基礎電気・電子大講座の助教授に昇進されました。

事務室では、池村功樹さんが総務部会計課総務係に移られ、その代わりとして中村友子さんが教務部学務課学務係からおみえになりました。更に、COEの担当として丸山利美さんが新しく系事務補佐員になりました。

2004年は国立大学が独立法人化されるため、学内ではその対策や準備のため毎日のように会議が開かれています。独立法人化されますと地域連携、外部資金獲得など様々な点から大学が社会からの厳しい目で評価されることになるかと思えます。激動の時代に突入する本学ではありますが、これまで以上に産業界や地域との連携を深め、社会に貢献できる教育・研究活動ができるよう教職員一同、精進するつもりであります（平成15年9月1日現在）。

情報工学系

和田和千

修了生、卒業生の皆様もご存じかと思いますが、現在、大学には、独立行政法人化など大きな変化が迫ってきております。その一方で、教育と研究のさらなる向上のための取り組みもなされており、例えば最近ですと、ファカルティディベロップメントの講演会や授業評価アンケートが組織的に実施されるようになっております。

さて、情報工学系で変わったことといえば、まず、先生方が居られるC棟が耐震補強されました。今年の初めに工事が完了し、食堂から見るとやや特徴的で白亜の建物となっています。また、先生方の異動もありました。まず、1月に宇津呂武仁先生が京都大学大学院情報学研究科へ転出されました。2月には宮崎保光先生が依願退職されて、愛知工科大学にお移りになりました。また、4月には、白井支朗先生が理化学研究所脳科学総合研究センターへ、早坂太一先生は豊田工業高等専門学校情報工学科へ異動されました。そして、高田広章先生は名古屋大学大学院情報科学研究科の教授に、大野和彦先生は三重大学工学部情報工学科講師に、北岡教英先生は本学講師に昇任されました。一方、8月には、国際協力の派遣でマレーシアのマルチメディア大学に1年間滞在されていた高橋港一助手が復帰されました。

これからも、系内・学内で変わることがいろいろあるかと予想されますが、いつも教職員が一丸となって柔軟かつ適切に対応していきたいと思っております（平成15年9月1日現在）。

電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

◆電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男, 井上光輝
 助教授：服部和雄, 中村雄一, 内田裕久
 助手：西村一寛, 稲田亮史

〈電気システム大講座〉

教授：恩田和夫, 榊原建樹, 長尾雅行
 助教授：穂積直裕, 乾 義尚, 滝川浩史
 助手：村上義信
 教務職員：桶真一郎
 技 官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：吉田 明, 米津宏雄, 石田 誠
 助教授：朴 康司, 若原昭浩, 澤田和明
 助手：岡田 浩, 高尾英邦, 古川雄三
 技 官：足木光昭

◆情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一, 中島 浩, 永持 仁
 助教授：梅村恭司
 講師：北岡教英, 小宮常康
 助手：石井利昌
 技 官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：金子豊久, 宇野洋二, 青野雅樹
 助教授：栗山 繁, 中内茂樹
 講師：福村直博
 助手：青木公也, 福田浩士

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭, 横山光雄
 助教授：後藤信夫
 講師：和田和千, 上原秀幸
 助手：野口健太郎, 佐々木正明
 教務職員：宮脇治雄

◆事務官

中村友子, 大宮明代, 丸山利美, 山田麗子,
 足立貴美

◆同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

西村一寛, 稲田亮史, 村上義信, 桶真一郎
 E-mail: admin-3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

野口健太郎, 福田浩士, 高橋港一 (愛知工科大)
 E-mail: admin-4@tut-ob.org

(平成15年12月1日現在)

平成14年度

電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

	平成14年度決算
■収入の部	
平成13年度繰越金	4,936,682
平成13年度終身会費入金分	1,160,000
預金利息	144
収入合計	6,096,826
■支出の部	
平成14年度会報発送費	246,800
平成14年度会報発送作業費	579,208
小 計	826,008
次年度繰越金	5,270,818
支出合計	6,096,826

研究室だより

先端スピンの・エレクトロニクス研究室

電気・電子工学専攻修士2年

高木 宏幸

我々先端スピン・エレクトロニクス研究室は、本年度より磁性研究室から発展し生まれた研究室です。元々の磁性研究室は、本校の開校と共に前任の藤井先生により開設された研究室であり、今までに約80名ほどの卒業生を企業へと輩出してきた研究室であります。現在では、退官されました藤井先生の「磁気を中核に据えた幅の広いテーマの追求」を引き継いだ井上先生を筆頭に内田先生、Andrey先生、西村先生、ポスドク2名、ドクター1名、修士15名、学部7名と大勢のメンバーで運営されています。中でも共同研究を行っているモスクワ大学の先生方や韓国、マレーシアの学生等国际色が豊かであり、会社や研究所の方々との共同研究など刺激が多く、非常に恵まれた環境で日々研究を行っています。

研究としては、磁気・磁性材料を中心として光や電子など様々な物理量・物理現象との相互作用系を取り扱い、物理・化学、材料、デバイス、システムなどのオリジナリティを重視したナノスケール磁性構造体の研究に取り組んでおります。主に現在では、光の局在化と光・磁気の相互作用を利用した磁性フォトリソグラフィを筆頭として、マイクロディスプレイ、ワイヤレスマイクロセンサ、磁気マイクロマ

シン、光スイッチ、テラバイト記録装置、非線形効果、表面物性など広範囲の研究が行われております。また、これらの成果を国内研究会、学会、国際学会など多くの場で発表しています。

研究だけでなく月一度、様々なイベントも行われています。忘年会、旅行など様々なイベントが企画され、日々の疲れをリフレッシュさせて研究に打ち込んでいます。

本校も時の流れと共に変化の時期にあります。我々先端スピン・エレクトロニクス研究室も同じく変革を受け変わりつつあります。先輩方より引き継いできた伝統は大切に、新たな人材が加わることで、より幅の広い、奥の深い研究室へと進化し続けています。



自然エネルギー・高密度プラズマ応用研究室

電気・電子工学専攻修士課程

2年 前田智美 1年 南澤伸司

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。現在、本研究室は榊原建樹教授、滝川浩史助教授のもと、総勢18名で構成されております。自然エネルギーグループとアークグループに大別され、

日々、研究に励んでいます。

自然エネルギーグループは、榊原教授を中心として、桶真一郎教務職員、博士1名、修士3名、学部4名、研究生1名で構成されております。修士1年がいな

いためメンバーは少し減りましたが、和やかな雰囲気のもと、楽しく研究を行っています。週1回ミーティングを行い、先生を交えて研究の進行状況を報告します。また、英語能力を向上させるため、週1回の雑誌会では英語の論文を読んでいます。

アークグループは滝川助教授を中心として、秘書1名、修士4名、学部4名、研究生1名で構成されています。主にプラズマナノマテリアルについて研究しています。毎週月曜日に定期ミーティングを行い、一人一人、一週間の報告を行っています。研究内容としては、主に真空アーク蒸着の分野とカーボンナノチューブの分野に分かれ、真空アークのグループ、カーボンナノチューブのグループ共に、様々な研究・実験を行っています。

研究室でのイベントは、春は新入生歓迎会、テニス大会&バーベキュー、夏はビーチバレーボール大

会と盛んに行われており、自然エネルギーグループとアークグループとの交流を深めています。

ご多忙とは存じますが、豊橋近辺へ来られたときには是非研究室へもお立ち寄り下さい。

研究室一同、お待ちしております。



光電子材料・プロセス開発研究室

電子・情報工学専攻博士3年

中西康夫



卒業生・修了生の皆様方、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いにご活躍しておられることと存じます。

現在の研究室は、吉田明教授を中心として、若原昭浩助教授、岡田浩助手、博士5名、修士13名、学部6名、企業共同研究員1名の総勢29名で構成されています。私が認識しているうちでは、ここ

数年で一番人数が多いのではないかと思います。少数精鋭の時代の方が良かったと言われないように、研究室一丸となって日々研究に勤しんでおります。また、日々の研究での疲れを癒すために、ご存知“夏ゼミ”では各地方へ旅行に出かけて英気を養い、研究室対抗ソフトボール大会等には積極的に参加して、研究室の結束を強めております。これだけの大人数ですから、大会では2つ以上のチームを編成して、好成績を取っています。

研究テーマは、1) 新機能的半導体材料の開発（窒化物および酸化物系のワイドバンドギャップ半導体、カルコパイライト系半導体）をはじめ、SOR (Synchrotron Orbital Radiation) 光を利用した2) 次世代半導体プロセスの開発、シミュレーションによる半導体材料開発を目的とした3) 第一原理計算に基づく新しい半導体材料の探索、そして近年注目されている、カーボンナノチューブを利用した4)

量子化機能デバイスの開発と、多方面に幅広く展開されており。週一度のミーティングでは、報告者を中心として議論を交えていく中で、幅広いテーマのお陰で専門分野外の知識も深めていくことができます。これは社会に出たとき、大いに役立つ財産となるのではないかと思います。

最近の大きなトピックスとして、固体機能デバイス研究センターの隣に、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (VBL) が今年度開設されました。産官

学連携が必須となる今世紀において、このVBLの開設はデバイス大講座だけでなく、本学のブレイクスルーとなるのではないかと思います。

最後に、豊橋方面へ来られたときには、どうぞお気軽にお立ちより下さい。諸先輩方のご来校を、研究室一同心よりお待ちしております。諸先輩方の今後の更なるご活躍を心よりお祈りいたしております。

音声・言語処理研究室

情報工学専攻修士2年

梅田 将 満

卒業生・修了生のみならず、いかがお過ごしでしょうか。現在の本研究室は、中川聖一教授と北岡教英講師を始めとし、修士7名、学部5名、研究生1名で構成されています。昨年まで一部の研究活動を共にして行っておりました自然言語処理研究室の宇津呂武人講師が2003年1月付けで京都大学大学院情報学研究所へ移られました。その影響もあり、以前より研究室の人数が増え、活気ある毎日を過ごしております。

研究室は、本研究室のテーマである「音声」と「言語」の2つのグループからなっています。音声グループでは、音声認識に関する研究や、韻律情報を用いた研究、話者認識などの研究を活発に行っています。言語グループでは言語モデルの研究や対話システムの開発、情報検索や文書要約の研究などの音声認識に関わる部分での研究を行っています。昨今の計算機の高速度に伴い、研究の可能性が広がり、音声認識の研究も多岐にわたるようになってきました。日々新たな可能性を目指して、進歩する技術に対応するべく研究に励んでいます。

研究成果としましては、発表活動を盛んに行っており、毎年博士課程の学生だけでなく、修士課程の学生も数名が国際学会で発表を行っております。昨年度末の音響学会には学部生から修士の学生まで約10名もの発表参加を行うという成果を上げるこ

うことができました。これからも多くの優れた研究成果を発表していきたいと思っています。

毎年恒例の夏の研究室旅行では、昨年度は焼岳登山、本年度は伊勢志摩方面へフェリーで行って参りました。また、冬の忘年会は近場の温泉（昨年度は西浦温泉）にてのんびりし、夜は宴会で親睦を深めております。

研究室の近況やメンバーについては、ホームページで公開しておりますので、是非ご覧ください。10月から新幹線ひかり号の豊橋駅への停車数も増え、アクセスも便利になります。ぜひお近くまでお越しの際には気軽に研究室にお寄りいただき、在学中やその後の貴重なお話を聞かせていただければ幸いです。心よりお待ちしております。



情報伝送研究室

情報工学専攻修士課程1年

姫野 信明



修了生・卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。

現在の本研究室の構成は、後藤信夫助教授、高橋港一助手の2名のスタッフと、博士2名、修士5名、学部4名、研究生1名の計12名の学生で、総勢14名であります。本研究室では、最近大きな変化がありました。宮崎保光教授が愛知工科大学に、増田忠弘助手はシンクレイヤ(株)に、佐々木秀記教務職員はSUNX(株)にそれぞれ移られました。高橋助手は国際協力事業団の長期専門家として平成14年8月にマレーシアに派遣され、平成15年8月に帰国されました。マレーシアでは前年派遣された後藤助教授の後任として、衛星通信ネットワークを利用

した遠隔教育プロジェクトに携わり、主に衛星通信システムの運用・保守を担当されました。

現在、本研究室では、(1) ブロードバンドフォトニックネットワーク、(2) 光量子コンピューティングおよび量子情報通信、(3) 生体における情報伝達の3テーマを中心に研究を行っております。(1)では、高速広帯域ネットワークを実現するための、高密度波長多重(WDM)による大容量フォトニックネットワークシステム、高速IPフォトニックルーティングシステムについて研究を行っております。(2)では、光量子情報を用いた光量子並列演算による量子コンピューティングの研究を行っております。(3)では、脳神経電磁生理現象の逆問題解析や、生体細胞における情報伝達機構を解明するための、ナノメートル電磁波による計測システムの研究を行っております。

本研究室の行事として、4月には新入生歓迎パーベキュー大会を技科大近くの浜辺で盛大に催しました。

機会があれば是非研究室を訪問してください。諸先輩方の御来校を研究室一同、心よりお待ちしております。皆様の卒業、修了後の体験や、在学中の貴重なお話をしていただければ幸いです。

3・4系同窓会交流会開催のお知らせ

3・4系同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍されていることと存じます。さて、現在3・4系同窓会役員会では同窓会費の有意義な使い道を模索し、学内からの要望を踏まえまして、3・4系の研究室と同窓生との交流会を計画しております。具体的な日時・場所などは決まっておりませんが、今のところ平成16年秋頃を予定しています。詳細が決まり次第、同窓会ホームページの3・4系のコーナーにてお知らせ致しますので、そちらでご確認頂けると幸いです。また、後日改めて招待状を送付させていただきます。それでは皆様のご参加をお待ち申し上げます。

同窓会ホームページ <http://www.tut-ob.org/>

～3・4系同窓会役員一同～

第 5 工 学 系

物質工学系より

系長あいさつ

物質工学系系長 逆井基次

同窓生の皆様、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。さて、既に新聞報道等によりご存知かとは思いますが大学再編、独立行政法人化と国立大学を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。我等、物質工学系も、自己点検の意味も込めて、若手教官を中心とした将来構想ワーキンググループを組織し、時代のニーズに即した社会に貢献できる組織作りを目標に生まれ変わろうとしております。その一環として創立以来、永きにわたり親しんできた小講座名の変更等、数々の改革が進められようとしております。近い将来、今にもまして強力な組織としての物質工学系を皆様にご紹介できるものと確信いたしております。当然のことながらこれら改革には教官一同が一丸となって取り組んで参りますが、同窓生の皆様の貴重なお知恵を拝借することもあろうかと存じます。近隣にお越しの際は是非とも大学にお立ちよりのいただき、変わり行く物質工学系を間近でご覧いただき、御意見等いただければありがたく存じます。



末筆となりましたが、同窓生の皆様のご健康、ならびに益々のご発展をご祈念いたします。

学内近況報告

第五工学系 松本明彦

卒業生・修了生の皆さんいがかお過ごしてでしょうか。不景気は大きな改善もなく、依然厳しい社会情勢ですが、皆さん御元気で頑張っていることと思います。

さて、物質工学系の近況をお知らせいたします。前号で近況をお知らせして以来、2名の先生が5系を離れました。4月には応用有機化学研究室で7年間活発に研究を展開されていた本山幸弘先生が転任されました。転任先は、九州大学先端物質化学研究所の永島英夫先生の研究室です。また、8月末には有機材料工学研究室の曹継壯先生が、3年の任期を終えて母国中国の大学に教員として移りました。一方、昨年度留学生センターに移られた西宮伸幸先生が4月に再び物質工学系に戻っていらっしゃいました。これまで、留学生センターに所属して留学生の皆さんに対する専門教育を担当しながらの5系兼務でしたが、現在は一昨年以前と同様に5系の専任として教育・研究にあたら



[工業無機化学大講座]

無機物性工学研究室：角田範義 教授、水嶋生智 講師、大北博宣 教務職員
 応用物理化学研究室：亀頭直樹 教授、大串達夫 助教授、佐藤裕久 助手
 無機材料工学研究室：逆井基次 教授、松田厚範 助教授、武藤浩行 助手

[工業分析化学大講座]

分離定量分析化学研究室：神野清勝 教授、平田幸夫 助教授、齊戸美弘 助手
 生 化 学 研 究 室：青木克之 教授、吉田祥子 講師、藤澤郁英 教務職員

[工業有機化学大講座]

有機材料工学研究室：伊藤浩一 教授、伊津野真一 教授、応用有機化学研究室：岩佐精二 助教授
 複合材料工学研究室：竹市 力 教授、松本明彦 助教授
 水素材料工学研究室：西宮伸幸 助教授

[分析計測センター]

計測化学研究室：服部敏明 助教授、加藤 亮 助手

[工学教育国際協力研究センター]

堤 和男 教授

[技 官] 太田初一、齋藤年秀

[事務官] 鈴木いずみ

れています。また、4月から亀頭直樹先生が図書館長と工学教育国際協力研究センター長に就任されました。

現在5系では17年度からのJABEE（日本技術者認定制度）対応を目指しています。JABEEは、大学で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力の養成に成功していることを認定する制度で、非政府団体である日本技術者教育認定機構（JABEE:Japan Accreditation Board for Engineering Education）が技術系学協会と密接に連携しながら審査・認定を行います。JABEEによる技術者教育プログラムの認定審査は(1)学習・教育目標、(2)学習・教育の量、(3)教育手段（入学者選抜方法、教育方法、教育組織）、(4)教育環境、(5)学習・教育目標達成度の評価と証明、(6)教育改善、と多岐にわたるため、5系内に青木克之先生を中心とするワーキンググループを設け、準備を進めています。

いよいよ今度の4月から技科大も国立大学法人として新たな体制で再出発します。現在、全学レベルで独立行政法人化に向けての組織・規則の整備が進んでいます。独法化後の大学像については未だはっきり見えてこないのが実情ですが、我々教官が一致協力して学生の皆さんの教育を進めてゆく姿勢は変わりません。皆さんのますますのご健勝を祈念すると共に、母校への変わらないご支援をお願いする次第です。

研究室だより

無機材料工学研究室

物質工学専攻修士2年 山田 竜平

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でおおいにご活躍のことと存じます。

現在の無機材料研究室は、逆井基次教授、松田厚範助教授、武藤浩行助手、修士2年2名、修士1年3名、学部4年5名の総勢13名（留学生1名）となっております。研究室の人数も増え、とても活気のある研究室になりました。

我々の研究内容ですが、大きく大別すると以下のようになっております。

- ・ナノインデンテーション装置の開発・評価
マイクロスケールであったインデンテーション評価法をナノ領域まで広げ、薄膜などの評価を行います。
- ・ゾル-ゲル法による機能性材料の作製と応用
金属化合物の加水分解や縮合重合反応を利用して、低温でガラスやセラミックスの合成を行っています。
- ・超塑性変形機構の解明

引張試験から巨視的な超塑性変形機構を、圧子圧入試験から局所的な変形機構について調査しています。

現在の研究室では、従来から行われてきた材料の物性評価の研究はもちろんのこと、新たにゾル-ゲル法により機能性材料の作製を行うなど、新しい分野の研究が行われています。

昨年の10月に大阪府立大学から赴任された松田厚範先生の下にも、今年の4月から生徒が配属されました。新たに実験室を立ち上げるという事で初めは大変でしたが、現在は落ち着き、夜遅くまで実験室にこもって研究に励んでいます。

月に一度のミーティングには、プロジェクターを用いて発表を行ない、研究室の名前を改名（爽やか研が有力候補です）するとか、いろいろな事が、皆様が在学されていたときは変わってきています。

豊橋へ来られる事がございましたら、どうぞお気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心より歓迎させていただきます。

最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご活躍を研究室一同、心からお祈りいたしております。

計測化学研究室

物質工学専攻修士2年 中田 泰子

物質工学系の卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様共に各分野の最前線でご活躍のことと存じます。

当研究室は昨年の加藤正直助教授の長岡高専への転任に伴い研究室名を「状態分析研究室」から「計測化学研究室」と改めました。現在、服部敏明助教授の下、昨年10月に着任された加藤亮助手、修士2名、学部

4名の総勢8名（内、女性5人・男性3人）で構成されています。

現在行っている研究テーマを簡単に紹介します。

- ①界面活性剤・高分子電解質の分析
- ②タンパク質と高分子電解質の相互作用の解析
- ③生体関連の陰イオン分析
- ④水素結合型分子を利用した新規センサーの開発
- ⑤CE-ICP-MSの試作などが挙げられます。

今の時期、修士2年は分析化学中部夏季セミナーでの発表に向けて、4年生はそれぞれの研究テーマで本格的に研究活動に取り組んでいます。

昨年度から月1回、データ討論会・雑誌会を行っています。データ討論会では、各自の実験結果を発表し問題点・今後の研究方針について全員で討論します。雑誌会では、研究テーマに沿った英論文を発表・説明します。これらを通して自身の研究への知識を深め再確認をすることでテーマへの熟知を促します。

今年の夏季セミナーは福井県で行われます。このセミナーには4年生も参加するのでイベントの少ない本研究室にとって初めての研究室旅行となります。みんな楽しみにしています。

最後に、諸先輩方のご来校を研究室一同、心よりお待ちしております。お気軽にお越し下さい。

複合材料工学研究室

物質工学専攻修士2年 齋藤 雄紀

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でおおいにご活躍なさっていることと存じます。

現在の複合材料工学研究室は、竹市 力教授を指導教官とする竹市グループと松本明彦助教授を指導教官とする松本グループから成り、メンバーに外国人研究者1名、博士1名、修士10名、学部5名を含む総勢19名で構成されております。

さて、以下に研究室の研究における近況を報告します。

竹市グループは、

- ・ポリイミドやポリベンゾオキサジンなどの分子構造および高次構造の検討による高性能化
- ・ポリウレタンやポリベンゾオキサジンなどの耐熱性向上ならびに強靱化などを目的とした分子複合化の検討
- ・層状粘土鉱物とのナノコンポジットや有機-無機ハイブリッド材料の作成
- ・芳香族高分子の焼成による炭素化および黒鉛化フィルム作成

などを研究テーマとして行っております。

松本グループは、

- ・表面化学構造制御によるメソ多孔性シリカの吸着特性変化
- ・クロマトグラフィー分離能と吸着熱の相関についての検討
- ・水素吸着用高圧ラインの製作

- ・低温吸着カロリメトリーによる多孔性固体表面の特性化

などを行っております。

また研究室では、新入生歓迎会、忘年会・新年会、追出しコンパなどの飲み会などのイベントも多く、学友会主催のサッカー大会などにも積極的に参加して

います

豊橋へお越しの際は、どうぞお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。研究室一同、心より歓迎させていただきます。最後になりましたが、諸先輩方の今後の更なるご発展、ご活躍を心よりお祈り致しております。

新任教官より

着任のご挨拶

物質工学系助教授 松田 厚 範

昨年9月17日付けで、物質工学系に助教授として着任いたしました松田厚範です。半年間の単身赴任を経て、今年3月末に、新学期にあわせて家族が豊橋に引っ越して来ました。今は、家族5人で、すっかり豊橋に馴染んだ生活を賑やかに送っております。



さて、私は、昭和62年に大阪府立大学大学院を修了した後、平成9年まで日本板硝子株式会社で、光ディスクや液晶関連光学素子の研究・開発を行いました。また、平成9年より大阪府立大学工学部機能物質科学科で、液相からガラスやセラミックスなどを合成する「ゾルーゲル法」を用いた機能性材料の研究と教育を行ってきました。最近、「ゾルーゲル法」に関心をお持ちの本学の卒業生の方々にも、技術相談等の訪問を頂くことが多くなりました。無機系機能性材料に関してなにかございましたら気軽に研究室をご訪問下さい。学生時代から続けて剣道をしており、こちらでも学生諸君と一緒に稽古を始めました。剣道部OBの諸先輩方は、是非道場へもお越し下さい。末筆になりましたが、卒業生、修了生の皆様、どうぞよろしくお願ひ致します。

分析計測センター

計測化学研究室助手 加藤 亮

卒業生、修了生の皆様、はじめまして。杜の都仙台での9年余りに及ぶ学生・研究生活に別れを告げ、2002年10月に本学分析計測センター助手に着任しました加藤亮です。静岡出身ということもあり豊橋の気候風土に戸惑うことなく今まで過ごしてきていますが、仙台での生活を振り返った時、梅雨時の蒸し暑さ、雪の降らない冬などを思うとこの辺りは南国だなあ、とつくづく感じます。



私が学んできた“測る化学”分析化学の分野においては、分析機器の発展が目覚ましく、とすればスイッチひとつで欲しいデータが出てくるような装置などもあります。そのお陰か、“測る”という作業においては頭を使わず手だけを動かしていれば良いように思われがちです。しかし実際は測定手順の一つ一つにはちゃんとした意味があり、その意味を考え、理解して手を動かすことで初めて測ったことになるわけですし、ひいては測定技術の向上及び新たな分析法・測定法の開発につながります。

いささか愚痴っぽくなってしまいましたが、今後は「科学的に裏付けられた(測定)技術」を各種講習会、研究・教育指導を通じてひとりでも多くの学生に伝えていきたいと考えています。若輩者ではありますがどうかよろしくお願ひします。

転任教官挨拶

豊橋のこと

西山 久 雄

(現 名古屋大学大学院 工学研究科)

昨年の9月1日付けで転任し、名古屋大学に勤めています。

昭和55年4月に、豊橋にやって来たときは、若干29歳でした。会社に入って5年たち、有機合成の技術で医薬



の開発を目標にし研究をしながらも、学術論文を出したりして育ち盛り?の時でした。大学に移り目標を180度転換し、もっぱら学術的・理学的な発想で研究をすすめました。高専出身の一期生が、おりしも修士にあがってきたときでした。技術科学大学というごろの悪さ(もう慣れた。いまでは親近感もある。)を感じながら、大手を振って化学の科学ができるという安堵感もありました。生き生きとした学生を教育しながら、研究をすることはこのように楽しく素晴らしいのかと感じた次第です。お金はありませんでした。赤外分光計と小さなNMRが唯一の有機化合物の分析機器でした。研究費だとか、なんとか経費だとかなんとか資金だとかいっさい気にしたことのない、技科大の創明期でのことです。少

なくとも十年くらいは思う存分やれました。もちろん平成5年に教授にさせていただき、しゃにむに教育研究に従事し、卒業されていった皆さんと有機化学をできたことは幸せであったと思います。

22年たち名古屋に勤めを移して思うに、毎年4、5人の卒業生をおくりだして数えてみるとおおよそ100人にもなるのかなあ。多くが専門の違う分野へ就職したみなさん、年賀状を見ると活躍の程がうかがわれます。全国遠くから勉強に来て、また遠くの会社へ入っていった同窓生諸君のたくましが分かります。これが大学です。大学の教育です。同窓生の皆さんの思う・考えるその技科大こそが本当の大学像です。法人化だとか統合だとかあるでしょうが、皆さんの技科大、私の技科大はそこにあります。消えることはありません。

名古屋の勤めから帰ってきて駅前立つと、夏には涼しい、冬には暖かな浜風を感じます。20年間そうかなと思いつつ、都会の喧騒からもどつてくると本当にそう思います。穏やかな東三河の地にやってきてよかったと思います。

いま思っていることは、お金では買えない、体からにじみ出るような個性ある、ふるえるような科学的な研究の論文を幾つか書けるように、がんばろうと思っています。また、若い名古屋の力を借りて。

皆様のご健康をお祈りしております。また、お会いしましょう。

転任にあたって

本 山 幸 弘

(現 九州大学 先導物質化学研究所)

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は、本年4月1日より、九州大学先導物質化学研究所に勤務しております。もともと「5～7年くらいを目処に仕事をして次に移っていこう」と考えていましたので、今回の転任は豊橋技科大に7年在職していたことから、時期的にちょうど良いタイミングであった



ように思います。

さて、九州大学と先導物質化学研究所(先導研)について紹介致します。九州大学は、いわゆる「タコ足」大学で、本部(中心)が箱崎地区、医学部等病院関連が馬出(「まいだし」と読む)地区、教養部が六本松地区、それから総合理工学研究院という独立研究科が筑紫地区にあり、先導研は筑紫地区(春日市)にあります。筑紫地区には、他にも応用力学研究所、健康科学センター、中央分析センター、先端科学技術共同研究センターがあります。なお、平成17年からキャンパスの移転が始まり、まず工学部から福岡市西区の元岡に移りはじめます。

先導研はこの4月に誕生した新しい附置研究所であり、その前身は従来から九大にあった機能物質科学研究所(附置研究所:筑紫地区)と有機化学基礎研究センター(学内共同教育研究施設:箱崎地区)とを融合・再編成して新たに組織された部局で、機能性の高い物質・材料の創製とその実用化基盤工学構築にかかわる基礎化学からプロセス工学までの理工学分野の幅広い研究領域をカバーしています。古い大学は複雑な歴史を持っており、先導研の前身である機能物質科学研究所(機能研)は、もとをたどっていくと、なんと昭和19年に設置された「木材研究所(3研究部門)」にたどり着きます。その後、昭和24年に「生産科学研究所(5研究部門)」に改組され、昭和60年に13研究部門・1研究センターに発展し、昭和62年に機能研へと改組されています。

先導研には4つの部門(物質基盤科学・分子集積化学・融合材料・先端素子材料)から構成されており、私は分子集積化学部門の中のクラスター分子化学分野に所属しております。「部門」や「分野」という区別はわかりにくいですが、先導研は筑紫地区に2つの建物があり、その中の1つ(南棟)に有機化学系が4講座があります。液晶や発光材料から不斉合成・高分子合成に至るまで幅広く、さらに測定・分析機器も数多くあることから、刺激的な毎日を過ごしています。この先導研では、教官は完全な任期制(6年)なので、いずれまた異動することになります。そのためにも日々頑張らねば、と思っている次第です。

最後に、7年間お世話になりました多くの先生方、また学生さん達にこの場をかりてお礼申し上げます。

—第5工学系同窓会収支報告—

まず始めに13年度決算での繰越金を1,756,550円として報告しておりましたが、正しくは1,575,809円の間違いでした。そのため14年度の繰越金は1,575,809円となりました。お詫び申し上げます。

支出の部の慶弔費は前第五工学系教授 小寺嘉秀先生のご逝去のため、同窓会慶弔規定(3)に基づく処理をしたものです。

その他の科目は昨年度と同様に予算を計上しました。

■収入の部

	平成14年度予算案	平成14年度決算	平成15年度予算案
前年度繰越金	1,575,809	1,575,809	1,766,717
会費	400,000	430,000	400,000
預金利息	400	45	100
小計	400,400	430,045	400,100
収入合計	1,976,209	2,005,854	2,166,817

■支出の部

会報郵送料	170,000	164,320	170,000
タックシール作成費	8,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	10,000	9,429	10,000
謝礼	12,000	14,000	14,000
名簿管理経費	15,000	10,000	15,000
ホームページ作成費	5,000	0	5,000
慶弔費	0	31,388	0
小計	220,000	239,137	224,000
次年度繰越金	1,756,209	1,766,717	1,942,817
支出合計	1,976,209	2,005,854	2,166,817

第6工学系

建設工学系より

学内近況報告

建設工学系教授 渡邊 昭彦

・**人事の変化**—4月から系長は私から新しく加藤史郎教授，系長補佐は広島康裕教授，就職担当は三宅醇教授，教務担当は本間宏教授が勤めておられます。また一昨年新設された工学教育国際協力センター(ICCEED)の助教授に倉本洋助教授が兼任しておられます。昨年の系内での人事では，中村俊六教授が定年を前に今年3月で退官され，御自分でコンサルをやっておられます。また，山本一伸教務職員がやはり3月に退官されました。8月には青木伸一助教授が教授に昇進されました。新しく来られた教官では，有田守COE研究員が来られました。

・**日本の大学同士で競争のCOEに建設とエコロジーの共同テーマが採択**—COEとは，文部科学省が「世界に通用する大学を造る」ということで新聞をにぎわせましたが，全国の大学が，大学の専攻科単位で研究テーマを申請し，内容が良ければ予算をつけてくれる制度で昨年からはじめ，各大学は名誉とお金が懸かっていると必死で応募しました。運と実力で建設はエコロジー工学系と一緒に環境生命工学専攻で申請し，見事採択されました。また，電気・電子工学専攻の一件も採択され，小さい大学で2件も採択され，建設の同窓会も全学の同窓会の皆様も喜んで頂けると思います。今年申請した2件は残念ながら駄目で，再挑戦する事になると思います。**12月18日には東京で建設工学系のCOE関連の「国際シンポジウム」を開催しますので，是非ご参加ください。**

・**大学法人化と建設工学系の個性化**—今年に入って，大学をめぐる動きが一段と活発化し，来年度に控えた大学法人化では，国立大学法人豊橋技術科学大学となり，教官の身分が公務員でなくなることや大学組織が民間と同じような組織となります。建設もこうした動きの中で，外部からの資金等が獲得出来，優秀な学生を輩出できるように，「**建設工学系の将来構想**」等を作り，社会の変化をリード出来る系を目指しています。大学統合では，昨年からは検討が行われている名大との統合が引き続き検討されています。名大と統合した場合に，吸収合併されることにならないように建設もさらに益々「**個性的な建設工学系への発展**」を求められています。

・**就職状況**—建設不況の中で，就職は一段と大変です。例年よりも就職の求人が早く始まり，さらには「**インターネットを用いた自由応募**」(系の推薦が要らず，何社でも受けられる)の圧倒的な増加とだらだらと続

き，5月頃には大方決まっていた前とは全く様相が変わりました。建設会社の求人が減り，学生は狭き門を何社も受け，東京等での「**連続して就職面接**」(言わば就職面接のはしご)を受けてくる学生も珍しくは無い状況です。建設の就職担当教官の所に会社の人事の人が頻りに訪れ，求人学系として受け入れ，学生を推薦した時代から，今年は全く変わりました。

・**建設と建設工学系の将来**—従来型の建設系企業のあり方は今後様変わりし，米国型の多様なネットワークによる仕事の仕方が多くなり，そのネットワークを構築出来る企業と，そのネットワークの中で認められる本当に実力があり個性的な人材が必要な時代になって来そうです。建設工学系も同様で，多様なネットワークを組めるかが今後勝負所になりそうです。その意味で，重要なネットワークの一つである建設工学系と同窓会は，今まで以上に相互に手を組んで共に生き残る方法を見つけていきたいと思います。わが建設系の同窓会の持つ名簿・会報を活かしながら今後連携を密にしたいと願っております。

■新任

有田 守 (COE 研究員)

■転出

中村 俊六 (退官、名誉教授)、山本 一伸 (退官)

■現職

[構造大講座]

教 授：加藤史郎(系長)、角 徹三、河邑 眞
 助 授：山田聖志、倉本 洋 (ICCEED 助教授兼務)、
 三浦均也
 助 手：中澤祥二、中治弘行
 技 官：金田隆文

[環境大講座]

教 授：北尾高嶺、本間 宏、青木伸一
 助 授：松本 博
 助 手：山田俊郎
 技 官：片岡三枝子

[計画大講座]

教 授：三宅 醇、渡邊昭彦、広島康裕 (系長補佐)
 助 授：大貝 彰、泉田英雄、加藤彰一
 助 手：谷 武、細田智久
 教務職員：金 広文

退官教官より

「老兵の新たなる旅立ちにあたって」

中 村 俊 六

元6系教授（現・名誉教授）

本年3月、私は大学を辞め、4月から三河湾の最奥部に位置する御津町御馬（みとちょう・おんま）の海岸に「半地下工房えれー」（あるいは、河川生態環境工学研究所）を構えて、個人営業の建設コンサルタントを始めた。辞める前は「毎日が日曜日」になることを半分期待し、半分恐れたが、今は毎日「えれー、えれー」と愚痴りながら忙しく暮らしていて、実際この原稿もインドネシアで書いている。

「えれー」はEco-River-EngineeringのEREである。だがこの場合、英語で読めば「いれー」になる。だから別名はEnvironmental River Engineering（河川生態環境工学）で行くことにした。いずれにしろ、生態系に配慮した川作りの下請け稼業だが、Design with Nature（自然の力を借りるデザイン）を売りのひとつにしている。実はこういう仕事か、はるか昔に、4年間世話になった総合建設業の佐藤工業を辞めたときからの夢だったのである。

大学にこころのこりはないの？と女房に言われた。ない、と言えようそになる。ましてや、大学が激変の渦中であって、しかも見るからに人材不足であってみれば、ひと暴れしてみるのも悪くないな、と思わないでもなかった。だがいかんせん、すでに老兵以外の何物でもなく、しばしばボケの兆候を自覚するに及んでは、夢の実現を最優先する「決断」しかなかったのである。

だから今やどうでもいいが、大学こそ、今、一刻も早い決断を迫られている。このまま推移すれば「官僚による徹底したコントロール」が、世界に類を見ない芸術品ともいえる完璧さで実現し、ノーコンで野放図で身勝手に利己的で非常識で非効率で、ただだからこそ、おおらかな包容力に満ちた大学の良さ

のいくつかは死ぬ。下手をすると大学の自治も学問の自由も。だから、残っている「現役兵」には下手をしないように祈るだけでなく、一致団結の決断を期待したい。官僚と戦う決断、官僚のコントロールから真に「独立」する決断を。

同窓生にも応援を求める。幸い、EREの世界と同様に、住民参加（public participation）が侮れぬパワーに成り得る時代でもあるのだから。



「孫の颯太（そうた）と半地下工房内で」



「台湾のプロジェクトについての打合せの様子」

研究室だより

三宅研究室

修士課程2年 村田 龍 雲

現在三宅研究室は博士課程1名、修士課程5名、学部4名の計10名で三宅先生、谷助手のもと研究を行っています。現在研究室では、1. LCM (ライフサイクルマトリックス)、2. 昭和ヒト桁層、3. リフォーム、4. 中国住宅市場と大きく分けて4つの柱で研究を行っています。

参加していただいたOBの方々のご存じかと思いますが、今年の夏、三宅研究室ではOB会を開きました。今年度末、三宅先生が退官されるため多くのOBの方々に集まって頂き、ゼミを開き皆さまから5分程度でしたが近況報告をして頂きました。1期生から25期生まで多くの方々から貴重なお話を聞かせて頂き、社会の現状を知ることができました。その後もお酒を飲みながら、いろいろとご指導して頂き大変有意義な会であったと思っています。三宅先生が退官されてからもOB会を開くこととなり、是非私も参加して、三宅研究室というコミュニティを継続していきたいと思っています。

現在、三宅研究室では研究と平行して、先生が25年間かけて集められた多大な資料の整理を行っています。私たちが生まれる前の資料や雑誌などがたくさん見つかり、大変驚きつつ作業を行っております。今後もどのように整理を行うのか頭を悩ませております。

最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、次回のOB会でお会いできることを楽しみにしております。



北尾研究室

修士課程2年 福 田 佳 弘

北尾研究室は現在4名の修士学生が在籍しています。私達の指導をしてくださっている先生方は北尾高嶺先生、山田俊郎先生のお二人です。学生はみな今年が卒業ということで就職活動に、研究に日々励んでいます。

北尾研究室は北尾先生が豊橋技術科学大学に就任されて以来、23年という歴史があります。この間に課程博士6名、論文博士7名(内1名予定)をはじめ、多くの修士、学士を世に送り出してきました。先輩方



はすでに上場企業の部長等をはじめ、社会の第1線で活躍しておられます。

さて北尾先生は明年3月をもって退官されるのですが、最近「生物学的排水処理工学」という本を出版されました。これは北尾先生が今までの研究をもとにまとめられたもので、本の製作にあたって私達学生も図表の作成に微力ながら参加させていただきました。北尾先生は退官後、龍谷大学理工学部への再就職の要請もあったのですが、教育生活にピリオドを打つこととされ、同大学にて非常勤講師を続けられる予定だということでした。

現在研究室は北尾先生の退官を控えており、助手の山田先生と学生4名と少ないですが、みな和気藹々と学んでいます。たまに飲み会などの行事も行っており、以前ジギスカンパーティーを行ったときには他研究室や他系の学生、先生方を交えて非常に楽しいものになりました。

皆様、日々ご多忙のこととは思いますが、豊橋を訪れた際には是非お立ち下さい。

最後になりましたが、みなさまの更なるご活躍とご健康をお祈りしております。

建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会幹事長 中澤祥二(14期生)

建設工学同窓会幹事長の中澤です。平成14年9月1日から1年間の収支決算を、下記の通りご報告いたします。建設工学同窓会の収入は、全学同窓会からの分配金と建設工学同窓会名簿売上金から成っています。支出は主に全学同窓会報の発送作業代・郵送代、建設工学同窓会名簿の印刷および発送作業・郵送代です。今までは、建設工学同窓会報と全学同窓会報を別々に郵送しておりましたが、今年度より、建設工学同窓会報を全学同窓会報と同時に発送し、郵送代を節約しようと考えています。

平成14年9月1日から平成15年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
■残 金	
平成14年9月1日現在	906,022
■収入の部	
全学同窓会からの分配金	450,000
建設工学同窓会名簿売上金(66部)	198,000
小 計	648,000
■支出の部	
全学同窓会報発送作業代・郵送代	228,480
建設工学同窓会名簿データ変更作業代	15,000
建設工学同窓会名簿印刷代	141,000
建設工学同窓会名簿発送作業代・郵送代	55,740
雑費(ラベルシート、のり、封筒代)	49,804
図書カード代(全学同窓会原稿執筆の謝礼 6人分)	12,000
小 計	502,024
■残 金	
平成15年9月1日現在	1,051,998

第 7 工学系

知識情報工学系より

学内近況報告

知識情報工学系学生生活委員 河合 和 久

この一年間は教職員の異動がほとんどなく、北崎先生が講師から助教授に昇任されたのが、唯一の人事異動でした。また、就職状況もほぼ例年どおりでした。若干、いわゆる「自由応募」による就職がふえる傾向にあります。これは、企業側がそちらにシフトしていることに起因すると考えるべきでしょう。

ここでは、系の教育用コンピュータ・システムのお話をしましょう。みなさんもかつて実験や演習で利用した F-101 コンピュータ室の話題です。ちょうど今、2005 年 3 月の更新期にむけて、新しいコンピュータ・システムの検討を進めているところなのです。

これまでに、F-101 室のコンピュータは、3 度の更新を行ってきました。最初は、系設置当初から使用した SparcStation IPX でした (1991.3. ~ 1996.2.)。とても大きなモニター画面 (19 インチ) を備えた学生用ワークステーションを 60 台設置していました。当時利用されたみなさんは、モニター背面のケーブルを気にしながら、椅子にすわったのを覚えていらっしゃるのではないのでしょうか。



第 2 期の F-101 室と、現行のノート PC 導入教育 (A2 講義棟) の様子。写真には LAN ケーブルが見えますが、現在では無線 LAN による接続も可能となっております。

次に設置したのは、HP のワークステーション 60 台でした (1996.3. ~ 2000.2.)。教室中央前の方の 20 台ほどが高度な画像処理用に性能の高いマシンで、のこりの 40 台が縦置きのマシンだったことが印象に残っています。サーバ室には、大きな並列計算機が設置されていたことを記憶している方もいらっしゃるでしょう。

現在使用しているのは、PC-Unix で、F-101 室には 60 台の Linux マシンが設置されています (2000.3. ~ 2005.2.)。モニターも液晶ディスプレイになり、机上も広く使用できるようになりました。加えて、2 年生と 3 年生にはノート PC (Windows98) を貸与しています。いかにコンピュータが安価になったかが分かります。しかも、現行システムから、ここに紹介したのとはほぼ同等のシステムが 4 系 (情報工学系) 用に、もう 1 セット、C 棟の方にあるのですから、同じ予算で設置していた前 2 期のシステムとは隔世の感があります。

さらに現在検討を進めている次期教育用コンピュータ・システムでは、F-101 室には「何もおかない (= 机だけ)」ことになりそうです。すべて貸与ノート PC のみにし、学生さん達が、その PC を持って F-101 やほかの教室で講義を受け、演習、実験を行なうようにしようとして検討しています。あの広い F-101 室にコンピュータが 1 台も並んでいないという姿を想像してみてください。

最後になりましたが、卒業生、修了生のみなさまのご健康と、一層のご活躍をお祈りいたします。

教職員一覧及び学生現員 (平成 15 年 9 月現在)

[情報科学大講座]

教 授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝
 助 授：河合和久、市川周一
 講 師：村越一支
 助 手：渡邊裕司、相田 慎

[機能情報工学大講座]

教 授：山本真司、新田恒雄、堀川順生
 助 授：金澤 靖、杉浦彰彦、北崎充晃
 助 手：滝沢穂高、桂田浩一

[分子情報工学大講座]

教 授：阿部英次、関野秀男、高橋由雅
 助 授：船津公人、栗田典之、後藤仁志
 助 手：加藤博明、墨 智成、Sokratis Alikhanidi

[事務関係]

事 務 官：三輪恵子
 技 官：小西和孝

[学生現員]

学 部：1 年次 15 名、2 年次 14 名、
 3 年次 59 名、4 年次 62 名
 修 士：1 年次 54 名、2 年次 61 名

研究室だより

〈情報科学大講座〉

河合研究室の近況

電子・情報工学専攻博士1年 木原卓也

卒業生・修了生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍のことと存じます。

さて、河合研究室の近況について報告させていただきます。現在の河合研究室に在籍する学生は、博士1名、修士2年3名、修士1年3名、学部4年2名、の計9名となっています。ひと時と比べますと学生数がやや減ってしまいましたが、逆に個人の使えるスペースが広がったため、みなさんのびと研究活動を行なっています。

研究内容も、各自がそれぞれにテーマを持ち、取り組んでいます。主なものとしては、カード操作ツール、講義の支援システム、RoboCupサッカー、があります。

カード操作ツールは、以前作成されていたものをJavaで実装しなおし、マルチプラットフォームとしています。現在は、操作記録をログとしてすべて保存し、そのログを再生できるプレイヤーを作成しています。これにより、カード操作ツール使用者の試行錯誤の過程も見る事が可能となります。

講義の支援システムは、事前に作成した指導案と実際に行なった講義を、比較・評価するものです。指導案は、授業の内容や進行だけでなく、使用する資料や教材といったものも含まれています。この指導案をデータ化し、実際に行なった講義と比較できるようにします。これにより、講義や指導案の反

省点を見つけることができる、というものです。

RoboCupサッカーは、自律移動ロボットによるサッカーを題材として、ロボット工学と人工知能の融合を目指すために提唱されたものです。本研究室では、RoboCupサッカーの中のシミュレーション部門を題材として、研究を続けています。

詳しい研究内容や各自の活動については、本研究室のWebページ (<http://www.ita.tutkie.tut.ac.jp/>)にて公開しておりますので、お時間のあるときにも見ていただくと幸いです。

最後になりましたが、先輩方の今後の更なるご活躍をお祈りしております。豊橋に来られた際には、お気軽に研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。



〈機能情報工学大講座〉

杉浦研究室の近況

知識情報工学専攻修士2年 須田安博

卒業生・修了生の皆様、変わりなくお過ごしでしょうか。それぞれ、大学での経験を糧に大いにご活躍のことと存じます。現在のメンバー構成は杉浦彰彦助教授と、博士4名、修士5名、学部4名、秘書1名の計15名で構成されています。

現在、研究室ではマルチメディア情報通信技術の高度化と医療・教育等への応用について中心に研究を進めています。主に以下の3つの研究課題に取り

組んでいます。

①マルチメディア情報の圧縮符号化と高効率伝送

マルチメディア情報通信の中核となる、次世代携帯電話、デジタル放送、ITS等の基盤技術についてソフトウェアとハードウェアの両面から研究を進めています。最少の情報量で最高の画質を獲るために、MPEG等でも適用されている動き補償予測符号化と周波数変換符号化について中心に研究して

います。さらに、人間の視覚特性と認知特性を利用した知的符号化や、3次元画像符号化にも挑戦しています。また圧縮情報が伝送路の途中で誤ると、再生画質に多大な被害が出る場合があります。その対策として、圧縮符号化に応じて最適な伝送方式を選択したり、伝送路に適応した変調方式を利用する適応符号化変調などの研究にも取り組んでいます。

②マルチメディアコンテンツ制作技術の高度化

デジタル放送が開始されると多チャンネル化が進み、番組の多様化が求められます。現在のホームページの様に個人が番組を制作し、放送する時代がやって来るでしょう。またコンテンツの枯渇も発生し、番組制作技術の簡素化が必要になります。最近の映画でもCG技術を利用して舞台セットやエキストラを省いていますが、当研究室では一人でも番組を制作できるPCソフトを開発しています。具体的には、自分の顔や動作を他人の顔や演技に変換したり、自分の声を声優の声に変換します。また、画面の中でアニメキャラクタを自在に動作させたり、半自動でアフレコをするソフトウェアの実現を目指します。

③マルチメディア情報通信技術の医療・教育応用

マルチメディア情報通信を新しい遠隔医療や通信教育に適用する研究を進めています。具体的には、

人間の脳のボケを定量化する診断支援ソフトや、通信教育支援ソフトの開発を進めています。この他にも視覚・聴覚の心理的な錯覚を利用した「思い込ませ前処理」や「錯覚VR」の研究も手がけています。

詳しい研究内容や、研究室の近況などはHP (<http://www.mmc.tutkie.tut.ac.jp/>) にて公開していますので、一度ご覧いただけたら幸いです。また、豊橋近辺へお越しの際には、お気軽に研究室へお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。



〈分子情報工学大講座〉

関野研究室の近況

知識情報工学専攻修士1年 野中尋史



知識情報工学系の卒業生、修了生の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。ここで、紙幅をお借りいたしまして関野研究室の近況についてご報告したいと思います。

本研究室は「量子、古典論に基づく計算シミュレーション法の開発とその応用による生体高分子やナノ物質の物性解明」を目的に、2001年に設立されました。現在、関野教授、墨助手、PDの小川研究員、杉木研究員ならびに修士二年生3人、修士一年生3人、

学部四年生3人で、以下のような研究に取り組んでいます。

- ① 量子シミュレーションの高精度高速化手法であるFMO法の開発
- ② 分子内の電荷移動を精度よく高速に計算できるQE法の開発
- ③ 上記2手法を用いた、DNA電荷移動のメカニズム解明
- ④ QE法を用いた分極率の計算（物性の予測）
- ⑤ 生体系で重要となる溶媒の効果を考慮するための液体の統計力学にもとづく各種シミュレーション法の開発
- ⑥ 量子シミュレーションで使われる手法のひとつであるDFT法の改良（TDDFTの開発）
- ⑦ 計算負荷の高いクーロン力の高速近似を可能にするFMMの改良

これらは世界でも最先端に近い研究であり、今年度は修士全員が岡崎にて5月に開催された理論化学討論会に出場するなど国内外での学会発表を活発に行っています。また、国際的な論文への投稿も盛ん

です。現在は、9月に京都で開かれる分子構造討論会に向けて一同研究に励んでいるところです。

研究室の行事としては、毎週2回から3回程度のゼミに加えて、4月ないし5月に新入生歓迎会、7月に学部四年生の発表練習を兼ねた合宿、3月頃に卒業生送別会などがあります。これらは他の研究室とほぼ同じような内容なのですが、この研究室独特といえる不定期行事がいくつかあります。ひとつは分子研究室合同セミナーです。これは、分子情報講座の他研究室との合同主催で、第一線で活躍されている国内外の研究者を招いて講演していただくもので、学会以外では聞けないような話が聞け、自分達の研究への刺激になっています。ふたつ目は、先生方が激務の合間をぬって学生の部屋に来られる抜き

打ち研究報告会です。これは、通常のゼミでの研究発表と違い資料も何もなく、突然部屋に来られた先生の「どうだ、研究の調子は…」を合図に始まる一対一での進行状況報告会なのですが、公式的なものでない分、ザックバランに語りあう事ができる貴重なミーティングです。議論が白熱すると数時間に及ぶことすらあります。その他、先生方を交えて酒を酌み交わしながら語り合ったり、後藤研の人などとサッカー大会を開いたり、レクレーションも盛んに行っています。

最後になりましたが、豊橋に来られた際にはお気軽に当研究室にお立ちよりください。心よりお待ちしております。

7系同窓会事務局より

〈分別リサイクルボックスの寄贈〉

知識情報工学系の環境美化のため、表玄関でもあるF棟1階ロビーにゴミ箱（分別リサイクルボックス）を寄贈・設置致しました。なお、本件の会計報告（平成15年度分）につきましては次号にて掲載予定です。



〈在学生（後輩）の声〉

7系同窓会の皆さんより分別リサイクルボックスを寄贈して頂きました。今までは青いポリバケツが置いてあるだけで非常に見苦しく、衛生的にも問題があったのですが、おかげ様で衛生面、外見ともに以前より美しくなり、F棟への出入りや1階ロビーで休憩する際、気持ちよく快適に過ごす事ができるようになりました。ありがとうございました！

（知識情報工学課程学部2年 三浦麻衣）

〈平成14年度収支報告〉

豊橋技術科学大学 7系同窓会
三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884420

項目	平成14年度決算
〈収入の部〉	
前年度繰越金	3,002,775
会費（各系分配金）	470,000
預金利息	88
収入合計	3,472,863
〈支出の部〉	
会報経費	
会報発送費	94,000
会報発送作業費	18,935
原稿執筆御礼	10,000
名簿管理経費	15,000
小計	137,935
次年度繰越金	3,334,928
支出合計	3,472,863

〈7系同窓会役員〉

加藤博明・洪澤博幸・山田実・大谷真知子
E-mail: admin-7@tut-ob.org
URL: <http://www.tut-ob.org/dept7/>

第8工学系

エコロジー工学系より

学内近況報告

エコロジー工学系 桂 進 司

エコロジー工学系の卒業生の皆様にはますますご健勝のことと存じます。エコロジー工学系では昨年度に引き続き、菊池洋先生が系長としてご活躍されており、新たに北田敏廣先生が系長補佐に就任されました。そして、昨年から今年にかけて、生態環境工学大講座のデル カルピオ先生が転出され、また本年度から来年度にかけての2年間の期限付きではございますが生物応用工学大講座の水野彰先生が分子科学研究所分子スケールナノサイエンスセンターに転出されました。一方で生態環境工学大講座には東京大学工学部より兼任ではあります、三好先生が助教授として着任され、また、生物応用工学講座に早稲田大学で博士の学位をとられた廿日出好先生が田中研究室の教務職員として着任されました。

現在、独立行政法人化をはじめとして大学をめぐる状況はめまぐるしく変化しております。そのような変化の一環として、大学における工学教育において、技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを外部機関が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定 (Professional Accreditation) 制度である日本技術者教育認定制度 (JABEE) の導入が進んでおります。本学ではすでに生産システム工学科課程がJABEEの認定を受けておりますが、エコロジー工学系においても、教育活動をさらに活発化させるように本年度のJABEEの試行にむけて、系内にいくつかの検討委員会を設置し、検討を進めているところです。

また、同窓会報第20号でもお知らせしたとおり、本エコロジー工学系の藤江教授を総括責任者として採択された21世紀型COEプログラム「未来社会の生態恒常性工学」も2年目に入り、ますます成果を挙げています。本プログラムが採択された大学はわずか50大学であり、本プログラムが採択された「学際・複合・新領域」の分野では24プログラムが採択されたのみです。このプログラムの採択はエコロジー工学が評価され始めたことを反映していると教職員一同考えておりますし、卒業生の皆様の励みになることを願っております。ま

た、あわせて大学の評価は卒業生の皆様の評価と密接に結びついております。本エコロジー工学系の卒業生の皆様がそれぞれの分野で活躍されることを心から願っております。

[生態基礎工学大講座]

教授：平石 明, 菊池 洋
助 教授：辻 秀人, 浴 俊彦, 田中照通
助 手：二又裕之, 松澤有希子

[生物応用工学大講座]

教授：水野 彰 (岡崎国立共同研究機構),
藤江 幸一, 田中 三郎
助 教授：後藤尚弘, 桂 進司
助 手：安田八郎, 高島和則, 大門裕之
教務職員：廿日出 好

[生態環境工学大講座]

教授：松爲宏幸 (副学長), 北田敏廣, 木曾祥秋
助 教授：金 熙濤, 成瀬一郎, 三好 明 (併任)
助 手：倉田学児, 小口達夫
教務職員：南 亘

[技 官]

坂井悦子

[事 務]

辻 博樹, 市橋洋子

[学生現員] (平成15年4月1日現在)

学 部：1年次13名, 2年次14名,

3年次50名, 4年次64名,

修 士：1年次42名, 2年次49名

会計収支

豊橋技術科学大学 8系同窓会

三井住友銀行 豊橋支店 普通預金 口座番号 884418

(平成14年9月1日~平成15年9月1日まで)

項 目	金 額
〈収入の部〉	
前年度繰越金	2,982,790
会費 (各系分配金)	540,000
預金利息	26
収入合計	3,522,816
〈支出の部〉	
会報発送費	60,000
図書券 (原稿執筆料)	10,000
次年度繰越金	3,452,816
支出合計	3,522,816

新任教官より



エコロジー工学の夢

エコロジー工学系助教授 三好 明

平成15年4月より、エコロジー工学系助教授を併任しております。本務（東京大学・工学系）との二足のわらじは、予想以上に難しいものであることを実感しております。情報化社会の恩恵で、かなりのことは遠方からでもできるはず、という期待に反して、「去るもの日々疎し」ではありませんが、目前にしないとなかなか腰があがらないという人間の性を改めて知る思いです。東京からは名古屋より近い「はず」の豊橋との距離もまた、痛感しております。新設当初の先輩教官の方々からは、「贅沢」とお叱りを受けそうですが...

化学にどっぷりと浸かっている本務と違い、学際的な色彩の強いエコロジー工学系に所属することになったことは、私にとって、新しい経験となりました。系の先生方の学識の深さと、守備範囲の広さには敬意を払わざるを得ない思いがする一方で、大学3年生（学生によっては1年生）からの教育を体系的に考えることが難しいことに、改めて驚かされています。物理学・化学・生物学、あるいは、建築学・機械工学・都市工学といった既存のレールの敷かれていない学際領域「エコロジー工学」がどこへ行くのかは、言うまでもなく、我々と学生の皆さん、そして卒業生の方々作り上げていくものです。非力ながら、この難しい仕事に多少なりとも、貢献できればと考えております。

そういえば、ふとんに入った子供達にせがまれながら開く、ハリー・ポッターの世界では、King's Cross 駅 9 と 3/4 番線から Hogwarts 魔法魔術学校への旅が始まります。ハリーを King's Cross まで送って来た、おじの典型的な俗物、Vernon Dursley が「ここが 9 番線、となりは 10 番線。で、おまえのはこの辺かい？そんなもの出来ちゃいないみたいだがね。」とあざけりながら去っていく姿が、いつも頭の片隅に残ります。最近手にしている、5 作目「不死鳥の騎士団」では、今、まさに、魔法省が Hogwarts 校における教育への監視を強め、魔法省の支配下に置こうとしています。ふと眠りにおちて、夢うつつで子供達が寝入ったのを確かめながら、「どこかの国のどこかの大学でもそんなことが...」などと夢と現実が区別つかなくなっている自分に気がつきます。それでも、どこかで「9 と 3/4」番線も Hogwarts も不滅だと確信しているのは、私だけでしょうか？



技科大に着任して

エコロジー工学系 廿日出 好

4月よりエコロジー工学系の教務職員に着任いたしました廿日出好（はつかでよしみ）です。私の一家の苗字は大変珍しい方だと思いますが、広島県出身です（広島でも珍しい苗字ですが）。その広島の西条にある広島大学に私の元いた研究室の先輩が助手として就職しております。本学に就職する前に、大学での仕事（研究、教育、雑務）について色々相談にのっていただきました。その先輩が、「田舎の学生は良い意味で素直だが、要領が悪い」というようなことを仰っていただきました。本学に着任してまだ半年です。研究室の以外の学生とはあまりコミュニケーションする機会がまだ少ないのですが、私の印象も、「やっぱり素直な学生が多く、要領があまり良くないな」というものでした。技科大の売りである「物作り大学」ということで、他の大学と比較しても学生は技術や知識はそれなりに持っていると思いますし、課題を与えれば、素直にそれをこなして行く能力をもっていると思います。一方で、「造る」に比べて「創る」能力のほうが今1つ足りないのかな、とも思います。早稲田では、技科大の学生と比べると技術もなく、遥かに勉強時間も少ない、というのが学生の大半です。ところが、追い詰められるとすばらしいアイデアを出したり、知人間の情報網を活用したりして、ずるいくらい要領よく物事をクリアします。しかし、この様に独創的なアイデアをだしたり、短い時間で物事を判断して結果をだしたり、広い知人のネットワークを持ち、それを活用する能力は、社会に出て大変役に立つものだと思います。彼らがどうやってそれを身につけているかという、「（勉強せずに）遊ぶ」ことからだと思います。先生に指示された実験を中途半端にまじめにやっている学生と、女の子を軟派して口説いてデートに誘う学生の、どちらが自分から積極的に頭を使うでしょうか（笑）？もちろん遊んでばかりいては大学になりませんので、学生には研究もそれ以外の（社会勉強的）遊びにも可能な限り積極的に取り組んでもらい、「造る」と「創る」の両方の能力を持った、「素直だし、頭もきれる」学生に育ってもらいたいと思います。若輩者ではございますが、これからどうぞよろしくお願ひします。

大学発ベンチャー企業の起業



科学技術コーディネーター 笠倉 忠夫

私は平成13年3月に本学を退官しましたが、文部科学省の産学連携支援事業に基づき、産学連携を担当する科学技術コーディネーターとして又大学に戻ってきました。そして、本年（平成15年）5月2日に大学発ベンチャー企業；(有) エコロジー技術研究所を設立しました。この名前には何処か聞き覚えがあるという方もいるのではないかと思います。確かにこの地域には地域企業と本学エコロジー工学系の教官が参加したエコロジー技術研究会が存在していました。この研究会は元来、当時提唱され始めたゼロエミッションの考え方を地域に適用する、つまり地域ゼロエミッションを研究することを主目的に組織されたもので、この地域の産業界の環境意識を高めるのに貢献して来ました。しかし、研究会組織では課題解決に対して自ずから限界があります。そこでこの度この組織を法人化し、問題解決を企業と法人のビジネスの中で対応していくことを目論んだ訳です。

起業に際して、大学発ベンチャーに拘ったのには理由があります。一つには、現在国が大学発ベンチャー1,000社を提唱していますが、これに呼応することです。本学では既に7社の大学発ベンチャーがあるそうですので、当社は8社目となるわけです。そして、もう一つの理由はエコロジー

工学系を中心とするベンチャー企業を起こし他系でのベンチャー起業に刺激を与え、豊橋技術科学大学のベンチャー起こしのレベルを高めることです。

エコロジー工学という学問は他の工学に比較して社会との結びつきが深く、その成果を社会へ還元して行く事が強く求められています。エコロジー工学系の教官の成果や専門的知識を原資として積極的なビジネス展開を計ることはエコロジー工学の説明責任を果たす有効な手段と考えています。(有)エコロジー技術研究所はこのような理念を掲げて発足しました。同窓会の皆様方のご教授ご鞭撻をお願い申し上げる次第です。

研究室だより

〈生物基礎工学講座〉

菊池・田中研究室の近況

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場の最前線で大いにご活躍のことと存じます。では、菊池・田中研究室の近況を御報告致します。

現在、当研究室では大きく分けて『RNA アプタマーの創製』、『リボヌクレアーゼPに関する研究』、『海洋性光合成細菌の菌体外に分泌する核酸の解析』の3つを中心に、核酸分子の持つ新たな機能の解析、創製を目的として研究を行っています。

『RNA アプタマーの創製』では、地球上に生物が誕生し進化した過程を「もの作り」に利用できるのではないかとの視点から、雑多なRNA分子をSELEXと呼ばれる試験管内における疑似ダーウィン進化を行うことにより機能的なRNA分子の創製を行っています。現在は主に分子プローブとしての応用を目指し、菌体表層、タンパク質などに特異的に結合するRNA分子の創製を目指し研究を行っています。

『リボヌクレアーゼPに関する研究』では、触媒活性を持つRNA分子（リボザイム）である真正細菌のリボヌクレアーゼPのRNAサブユニットの触媒及び基質認識機構の解明を中心に、独創的なリボザイム系の創製、リボヌクレアーゼPによる遺伝子発現制御はもちろんのこと、リボヌクレアーゼPを通じて見える分子進化の軌跡を辿ることをも視野に入れた研究を行っています。

『海洋性光合成細菌の菌体外に分泌する核酸の解析』では、遺伝子そのものやそれをもとにしたタンパク質を作るための設計図であるはずのDNAや

RNAがある種の細菌では菌体外に分泌されているという興味深い現象に関し、分泌される核酸の分子生物学的手法による解析により、これまで知られていなかった核酸の機能を明らかにすべく研究を行っています。

現在の菊池・田中研究室は、菊池洋教授、田中照通助教授を中心に、坂井悦子技官、博士3年1名、博士1年2名、修士2年5名、修士1年6名、学部4年生7名の総勢24名で構成されています。

今年度も、研究室メンバー全員、昼夜を問わず研究を行い、多数の学術論文、学会発表を行っております。

皆様、ご多忙のことかと存じますが、近くにお越しの際には是非お立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。なお、研究室ホームページ<http://rna.eco.tut.ac.jp/>において、研究についてなどを公開しておりますので御覧頂ければ幸いです。

最後になりますが、諸先輩方の更なるご活躍を研究室一同祈念致しております。

(D1 安藤智朗)



第9学系

人文・社会工学系より

学内近況報告

吉村弓子

9系では平成15年9月1日までに、ずいぶん人事異動がありました。留学生センター相談担当の西宮先生が5系に戻られて後任に岩本先生が、また大学院入学前予備教育担当として氏平先生が着任されました。語学センターの結城先生は金沢大学に転出なさり、新しく田村先生がいらっしゃいました。同窓生の渋澤先生は、2月から英国、8月から米国で研修生活を送っておられます。

ところで、同窓生のみなさんは、忙しい毎日の中でも次のような疑問がふと湧いてくることはありませんか。私の仕事は世のため人のためになっているのか。何のために生きているのか。日本の将来はどうなるのか。世界に平和は訪れないのだろうか……。私たち9系の教育は、その答を自分で見つけようとする学生を育てたい、という情熱を胸に教育にあたっています。

在学中でなくてもいい、20年後、30年後に道標になれば、授業は成功だと思うのです。

教職員一覧

[人文・社会工学系]

教授：浜島昭二(系長)、藤原孝男、宮田 譲、山口 誠

助教授：相京邦宏、尾碇一志、中森康之、西村政人、平松登志樹

講師：渋澤博幸

外国人教師：David Levin

[語学センター]

教授：小杉隆芳(センター長)、伊藤光彦、山本 淳

講師：田村真奈美

教務職員：鈴木聖子

[留学生センター]

教授：山口 誠(センター長：併)、岩本容岳、氏平 明

助教授：加藤三保子、吉村弓子

講師：村松由起子

[体育・保健センター]

教授：安田好文(センター長)

助教授：柳原 大

[未来技術流動研究センター]

教授：古川泰男

助手：白川正知

第52回東海地区国立大学体育大会総合成績一覧表（男女団体別）

平成15年6月28日～29日、7月5日～6日の日程で、第52回東海地区国立大学体育大会が開催されました。

(以下成績表一覧)

項目	順位	順位								備考
		優勝	準優勝	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	
1 陸上競技	男	岐大10	静大8	名大6	三重大5	愛教大4	名工大3	豊技大2	浜松医科1	
	女	愛教大5	静大4	名大3	岐大2	三重大1				
2 水泳	男	名大10	愛教大8	岐大6	静大5	三重大4	浜松医科3	名工大2	豊技大1	
	女	岐大8	愛教大6	名大5	三重大4	浜松医科3	静大2	名工大1		
3 硬式野球		静大8	愛教大6	名工大・豊技大・名大・三重大・岐大各3.5						
4 準硬式野球		静大10	岐大8	名工大・豊技大各5.5		名大・三重大・愛教大・浜松医科各2.5				
5 テニス	男									雨天オープン
	女									
6 ソフトテニス	男									雨天オープン
	女	愛教大6	名大5	三重大4	静大3	岐大2				
7 バスケットボール	男	岐大10	名大8	三重大6	名工大5	愛教大4	静大3	豊技大2	浜松医科1	
	女	静大6	愛教大5	名大4	三重大3	岐大2	浜松医科1			
8 バレーボール	男	静大10	岐大8	三重大6	名大5	愛教大4	名工大3	浜松医科2		
	女	愛教大6	静大5	岐大4	三重大3	名大2				
9 卓球	男	名大8	岐大6	名工大5	静大4	三重大3	愛教大2	豊技大1		
	女	岐大6	愛教大5	名工大4	名大3	静大2	三重大1			
10 バドミントン	男	名大10	岐大8	静大6	名工大5	三重大4	豊技大3	浜松医科2	愛教大1	
	女	三重大10	岐大8	名大6	静大5	浜松医科4	愛教大3	名工大2		
11 サッカー		静大10	名大8	三重大6	豊技大5	岐大4	愛教大3	浜松医科2	名工大1	
12 ハンドボール	男	愛教大8	岐大6	名大5	静大4	名工大3	浜松医科2	三重大1		
	女	愛教大	岐大	三重大						オープン
13 柔道		岐大5	名大4	静大3	名工大2					
14 剣道	男	名大10	静大8	岐大6	愛教大5	名工大・豊技大・浜松医科・三重大各2.5				
	女	愛教大6	名大5	静大4	岐大3	浜松医科・三重大各1.5				
15 体操	男	岐大	名大	静大						オープン
	女	岐大	静大							
16 馬術		名大6	名工大5	三重大4	愛教大3	静大2	岐大1			
17 空手道	男	静大8	名大6	浜松医科5	岐大4	名工大3	三重大2	豊技大1		
	女	浜松医科8	静大6	名大5	三重大4	名工大3	岐大2	愛教大1		
18 弓道	男	静大8	名大6	名工大・愛教大・浜松医科・三重大・岐大各3						
	女	岐大8	名工大6	愛教大・名大・静大・浜松医科・三重大各3						
19 アーチェリー	男	岐大5	名大4	三重大3	静大2	愛教大1				
	女	岐大4	愛教大3	三重大2	静大1					
20 少林寺拳法		名大8	愛教大6	静大5	三重大4	岐大3	名工大2			
総合順位	男	名大	静大	岐大	愛教大	三重大	名工大	豊技大	浜松医科	
	女	愛教大・岐大		静大・名大		三重大	浜松医科	名工大	豊技大	

平成14年度 卒業・修了者就職先一覧

平成15年5月1日現在

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
一般企業					
1	(株) アイヴィス	0	0	1	1
2	相生精機(株)	0	2	0	2
3	アイコクアルファ(株)	0	1	0	1
4	愛三工業(株)	0	1	0	1
5	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	1	3	0	4
6	アイシン精機(株)	0	2	0	2
7	アイシン高丘(株)	0	1	0	1
8	愛知県警	2	0	0	2
9	ITキャリアパス(株)	0	1	0	1
10	(株) A I H O	1	0	0	1
11	アイホン(株)	0	1	0	1
12	旭化成(株)	0	1	0	1
13	旭硝子(株)	0	1	0	1
14	旭電化工業(株)	0	1	0	1
15	味の素冷凍食品(株)	0	1	0	1
16	アスモ(株)	0	3	0	3
17	(株)アドバンスデータコントロールズ	0	1	0	1
18	(株) アブ口	0	2	0	2
19	(株) アルファシステムズ	1	4	0	5
20	安全自動車(株)	0	1	0	1
21	アンダウス大学	0	1	0	1
22	アンリツエンジニアリング(株)	0	1	0	1
23	石川島芝浦機械(株)	0	1	0	1
24	(株) イシダ	0	1	0	1
25	いすゞ自動車(株)	0	1	0	1
26	(株) 出雲村田製作所	0	1	0	1
27	一羊舎	1	0	0	1
28	(株) 伊藤工務店	0	1	0	1
29	(株) イトーキクレビオ	0	1	0	1
30	インターネットセキュリティシステムズ(株)	0	1	0	1
31	(株) インタープロジェクト	1	0	0	1
32	(株) インテック	1	0	0	1
33	インドネシア大学	0	1	0	1
34	(株) インフォーコム	0	1	0	1
35	(株) インフォマティクス	0	0	1	1
36	ウインワンズウェイ(株)	0	1	0	1
37	(株) ウェザーニューズ	0	1	0	1
38	ウシオ電機(株)	0	1	0	1
39	宇宙通信(株)	0	1	0	1
40	(株) NEC情報システムズ	0	1	0	1
41	NEC化合物デバイス(株)	0	1	0	1
42	NECモバイリング(株)	0	1	0	1
43	(株) NTTドコモ関西	0	1	0	1
44	(株) NTTドコモ東海	0	1	0	1
45	F D K (株)	0	1	0	1
46	(株) エムエムジーコンピューターリサーチ	0	1	0	1
47	王子製紙(株)	0	2	0	2
48	オークマ(株)	0	1	0	1
49	(株) 大林組	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
50	岡本(株)	1	0	0	1
51	(株) オプトン	0	1	0	1
52	オンキヨー(株)	0	1	0	1
53	(株) カーネルコンセプト	1	0	0	1
54	海上自衛隊舞鶴教育隊	1	0	0	1
55	(有) 門脇構造研究所	1	0	0	1
56	カヤバ工業(株)	0	1	0	1
57	川重岐阜エンジニアリング(株)	0	2	0	2
58	(株) 川邑研究所	0	0	1	1
59	(株) 川本製作所	0	1	0	1
60	環境エンジニアリング(株)	0	1	0	1
61	関西ペイント(株)	0	1	0	1
62	木更津工業高等専門学校	0	0	1	1
63	北嶋工業(株)	1	0	0	1
64	キャノン(株)	0	3	0	3
65	九州松下電器(株)	1	1	0	2
66	(株) 協栄製作所	0	1	0	1
67	京セラ(株)	0	3	0	3
68	(株) きんでん	0	1	0	1
69	CELESTAR LEXICO-SCINCE. INC	0	1	0	1
70	(株) クレスト	0	1	0	1
71	(株) ケイラインシステムズ	0	1	0	1
72	(株) ケミカルソフト開発研究所	0	1	0	1
73	(株) ケンウッドエンジニアリング	0	1	0	1
74	(株) 構造計画研究所	0	1	0	1
75	(株) こうそく	0	1	0	1
76	興和(株)	0	1	0	1
77	コーケン工業(株)	1	0	0	1
78	国土交通省 東北地方整備局	1	1	0	2
79	Knou Knean University Nong Khai	0	1	0	1
80	(株) 近藤製作所	0	1	0	1
81	(株) 再春館製薬所	0	1	0	1
82	サイバーコム(株) 横浜事業所	1	0	0	1
83	三栄ハイテックス(株)	0	1	0	1
84	三協精機(株) マレーシア	1	0	0	1
85	三甲(株)	0	1	0	1
86	三洋電機(株)	0	1	0	1
87	シアクワラ大学	0	1	0	1
88	(株) シーティーアイ	0	1	0	1
89	J S R (株)	0	1	0	1
90	塩野香料(株)	0	1	0	1
91	志賀国際特許事務所	0	1	0	1
92	シャープ(株)	0	1	0	1
93	SHARP-ROXY CORPORATION	1	0	0	1
94	ジャスコエンジニアリング(株)	0	2	0	2
95	ジャトコ(株)	1	2	0	3
96	SHOWA ALUMINUM (MALAYSIA)	1	0	0	1
97	昭和電工(株)	0	0	1	1
98	新キャタピラー三菱(株)	0	1	0	1
99	新東工業(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
100	新東ブレーター(株)	0	1	0	1
101	新日本製鐵(株)	0	0	1	1
102	新菱冷熱工業(株)	1	0	0	1
103	スズキ(株)	0	1	0	1
104	スター精密(株)	1	0	0	1
105	住商情報システム(株)	0	1	0	1
106	住友電気工業(株)	0	1	0	1
107	住友電装(株)	0	1	0	1
108	生活協同組合コープこうべ	1	0	0	1
109	セイコーエプソン(株)	0	1	0	1
110	セキスイハイム山陽(株)	0	1	0	1
111	S M C (株)	0	1	0	1
112	(株) セロテック	1	0	0	1
113	ST. XAVIER'S COLLEG	0	0	1	1
114	(株) 善都	0	1	0	1
115	(株) 創造科学研究所	0	1	0	1
116	ソニー(株)	0	5	0	5
117	ソニーLSIデザイン(株)	0	1	0	1
118	ソニーイーエムシーエス(株)	0	3	0	3
119	ソニーエリクソンモバイルコミュニケーションズ(株)	0	1	0	1
120	ソニーセミコンダクタ九州(株)	0	2	0	2
121	(株) ソミック石川	0	1	0	1
122	第一電通(株)	0	1	0	1
123	(株) 大興	0	1	0	1
124	大信精機(株)	0	2	0	2
125	大同特殊鋼(株)	0	1	0	1
126	(株) ダイナム	1	0	0	1
127	大日本スクリーン製造(株)	0	1	0	1
128	大和化成工業(株)	0	1	0	1
129	大和ハウス工業(株)	1	0	0	1
130	(株) 高木化学研究所	1	0	0	1
131	(株) 多伎振興	1	0	0	1
132	(株) タクティ	0	1	0	1
133	(株) ダット	0	1	0	1
134	(株) 立岩	0	1	0	1
135	立山アルミニウム工業(株)	1	1	0	2
136	多摩川精機(株)	0	1	0	1
137	多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防	1	0	0	1
138	タムラ化研(株)	0	1	0	1
139	千葉ゼネラルサービス(株)	0	1	0	1
140	中央発條(株)	1	0	0	1
141	中電コンピュータサービス(株)	0	1	0	1
142	(株) 中部	0	1	0	1
143	中部松下システム(株)	0	1	0	1
144	中央鑄造所(名)	0	1	0	1
145	T I S (株)	0	1	0	1
146	(株) ティエスティ	0	1	0	1
147	T K C (株)	0	1	0	1
148	(株) テクシア	0	1	0	1
149	電気技術開発(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
150	電源開発(株)	0	1	0	1
151	電子科学(株)	0	1	0	1
152	(株)デンソー	0	3	1	4
153	デンソーテクノ(株)	0	1	0	1
154	(株)TOKAI	0	1	0	1
155	東京コンピュータサービス(株)	0	1	0	1
156	東京大学	0	0	1	1
157	東京鉄鋼(株)	0	1	0	1
158	東京電力(株)	0	1	0	1
159	(株)東芝	0	2	0	2
160	東芝ITコントロールシステム(株)	0	1	0	1
161	東芝ITソリューション(株)	1	0	0	1
162	(株)東芝セミコンダクター社	0	1	0	1
163	東芝ソシオシステムズ(株)	0	1	0	1
164	東新住建	0	1	0	1
165	東邦化学工業(株)	0	1	0	1
166	東北日本電気ソフトウェア(株)	0	1	0	1
167	東洋鋼板(株)	0	1	0	1
168	(株)東輪堂	0	1	0	1
169	東レ(株)	2	0	0	2
170	(株)ドーコン	0	1	0	1
171	鳥羽商船高等専門学校	0	0	1	1
172	トビー工業(株)	0	1	0	1
173	豊川市役所	0	1	0	1
174	(株)トヨタコミュニケーションシステム	0	2	0	2
175	トヨタ自動車(株)	1	1	0	2
176	(株)豊田自動織機	0	2	0	2
177	トヨタ車体(株)	0	1	0	1
178	(株)豊田中央研究所	0	1	1	2
179	豊田鉄工(株)	1	0	0	1
180	(株)トヨタマックス	1	2	0	3
181	豊橋技術科学大学	0	2	0	2
182	豊橋市役所	0	2	0	2
183	トランス・コスモス(株)	0	2	0	2
184	(有)西井構造設計事務所	0	1	0	1
185	西園博美構造設計事務所	0	1	0	1
186	日亜化学工業(株)	0	2	0	2
187	ニチハ(株)	0	1	0	1
188	日揮(株)	0	1	0	1
189	日設産業機器(株)	0	1	0	1
190	ニッソーサービス(株)	0	1	0	1
191	(株)ニテック	0	1	0	1
192	日本エマソン(株)	1	0	0	1
193	(財)日本ガス機器検査協会	0	2	0	2
194	(株)日本環境認証機構	1	0	0	1
195	日本金属工業(株)	0	1	0	1
196	日本システムウエア(株)	0	1	0	1
197	(株)日本システムデベロップメント	1	0	0	1
198	日本精工(株)	0	1	0	1
199	日本SGI(株)	0	1	0	1
200	日本総研(株)	0	1	0	1
201	日本中央競馬会	1	0	0	1
202	日本電気(株)	0	1	0	1
203	日本電気エンジニアリング(株)	0	1	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
204	日本電気システム建設(株)	0	1	0	1
205	日本電産(株)	2	3	0	5
206	日本電産シバウラ(株)	1	0	0	1
207	日本特殊陶業(株)	0	1	0	1
208	日本ハム物産(株)	0	1	0	1
209	日本プロセス(株)	0	1	0	1
210	日本ユニシス	0	1	0	1
211	ニューアロイ(株)	0	1	0	1
212	(株)野口製作所	0	0	1	1
213	(株)ノリタケカンパニーリミテド	0	1	0	1
214	バイエルメディカル(株)	1	0	0	1
215	ハイテックシステム(株)	0	1	0	1
216	パナソニックオートモティブシステムズ社	0	1	0	1
217	林テレンプ(株)	0	1	0	1
218	(株)パンテクノ	0	1	0	1
219	(株)日立インダストリイズ	0	1	0	1
220	日立金属(株)	0	2	0	2
221	日立ケーイーシステムズ	0	1	0	1
222	(株)日立システムアンドサービス	1	1	0	2
223	(株)日立情報システムズ	0	1	0	1
224	(株)日立製作所	0	3	0	3
225	日立造船(株)	0	1	0	1
226	(株)日立ハイシステム21	1	0	0	1
227	(株)日立マイクロソフトウエアシステムズ	0	1	0	1
228	(株)ヒミカ	0	1	0	1
229	(株)ヒューマンネット	1	0	0	1
230	フィールドメンテナンス(株)	0	1	0	1
231	福助工業(株)	0	1	0	1
232	フジオ・ネ・テクノ・ソリューションズ	1	0	0	1
233	富士機工(株)	0	1	0	1
234	富士ゼロックス(株)	0	2	0	2
235	富士ソフトABC(株)	0	1	0	1
236	(株)フジタ	0	1	0	1
237	(株)富士通プライムソフトテクノロジー	0	2	0	2
238	富士電機(株)	0	1	0	1
239	富士ハウス(株)	0	2	0	2
240	フジバン(株)	1	0	0	1
241	(株)フジユニバンス	1	1	0	2
242	フタバ産業(株)	0	1	0	1
243	フタバ食品(株)	0	1	0	1
244	双葉電子工業(株)	0	1	0	1
245	富士通(株)	0	1	0	1
246	船井電機(株)	0	1	0	1
247	(株)ブリヂストン	0	1	0	1
248	BASE INOACポリウレタン	0	1	0	1
249	ベストキャリア(株)	1	0	0	1
250	北海道警察	0	1	0	1
251	北海道電力(株)	0	1	0	1
252	堀江金属工業(株)	0	1	0	1
253	香港易徳投資集团有限公司	0	0	1	1
254	Guangzhou Honda	0	1	0	1
255	本田技研工業(株)	0	3	0	3
256	(株)マーレーテネックス	0	1	0	1
257	松阪市役所	1	0	0	1

No.	企業名等	工学部	修士	博士	合計
258	松下システムテクノ(株)	0	2	0	2
259	松下精工(株)	0	1	0	1
260	松下通信工業(株)	0	1	0	1
261	松下電器産業(株)	0	5	0	5
262	マツダ(株)	1	0	0	1
263	マルスギ(株)	1	0	0	1
264	(有)三鷹エンジニアリング	0	0	1	1
265	三菱自動車工業(株)	0	1	0	1
266	三菱重工業(株)	0	1	0	1
267	三菱電機(株)	0	3	0	3
268	三菱電機コントロールソフトウェア	0	1	0	1
269	三菱レイヨン(株)	0	0	1	1
270	ミネベア(株)	0	0	1	1
271	(株)ミヤケ	0	1	0	1
272	MYANMAR AUTO MORBILE	0	1	0	1
273	武蔵精密工業(株)	0	1	0	1
274	(株)村田製作所	0	1	0	1
275	(株)メイテック	1	5	0	6
276	(株)メイテックコム	1	1	0	2
277	(株)明電舎	0	1	0	1
278	明豊ファイナリティワークス(株)	0	1	0	1
279	(株)メディアネットワーク	1	0	0	1
280	(株)物語コーポレーション	1	0	0	1
281	(株)森精機製作所	0	1	0	1
282	柳伸建築設計事務所	0	1	0	1
283	矢作建設工業(株)	0	1	0	1
284	山上水産(株)	0	1	0	1
285	ヤマザキマザック(株)	0	1	0	1
286	(株)山武	0	1	0	1
287	(株)ヤマダ電機	1	0	0	1
288	山梨大学	0	0	1	1
289	輸送機工業(株)	0	1	0	1
290	(株)ユタカ技研	1	0	0	1
291	ユニチカ(株)	1	0	0	1
292	横河電機(株)	0	1	0	1
293	UNIVERSITY of ENGINEERING and TECHNOLOGY LAHORE	0	0	1	1
294	理化学研究所	0	1	2	3
295	陸上自衛隊	0	1	0	1
296	リコーテクノシステムズ(株)	0	1	0	1
297	リヤド大学	0	1	0	1
298	ローム(株)	0	3	0	3
299	ローランドディー・ジー(株)	0	1	0	1
300	(株)ワイ・イー・シー	0	1	0	1
301	(株)渡辺製作所	0	1	0	1
	合計	64	300	20	384

※社会人卒業・修了者の復職を除く。

計	就職者(男子)	53	265	20	338
	(女子)	11	35	0	46
	合計	64	300	20	384

同窓会事務局より会員の皆様へ

—今後の同窓会活動について—

同窓会会長（5系4期） 後 藤 泰 男
(E-mail: goto@i2.inax.co.jp)

本年7月に公布された国立大学法人法が10月1日から施行され、私たちの母校である豊橋技術科学大学でも活発な活動を続けていると聞いています。昨年の同窓会報でも報告しましたように、豊橋技術科学大学の場合は工学部のみの単科大学であるため単独での独立法人としての存続は非常に難しく、他大学との統合による総合大学化によって存続する事を模索しているそうです。具体的な統合先は名古屋大学を中心として話を進めていると大学側から説明を受けています。

この統合後の同窓会活動について、同窓会では先日臨時の役員会を開催し議論しています。詳細については、役員会議事録を同窓会ホームページ (<http://www.tut-ob.org/>) に掲載しておりますが、この内容を以下にまとめてみます。

1. 独立行政法人化（平成16年度）および大学統合後においても豊橋技術科学大学は独立局として存在する場合、同窓会は、継続活動を行う。
2. 継続活動するにあたっては、同窓会活動の活性化を図るために系単位での活動に基軸をおいた形に変更していく。
3. 全学統一の同窓会活動は、これまでどおり同窓会会報の発行と名簿作成を中心に行うが、郵送によるサービスからweb上での公開に変更していく。
4. 特に同窓会名簿については、個人情報セキュリティ向上とセキュリティ向上による住所掌握率向上を目的に、冊子郵送による発行を中止し、e-mailや郵便・電話での対応に切り替えていく。（平成16年度の発行を最後とする）
5. 大学側が計画する豊橋技術科学大学30周年記念行事（平成18年10月）へ、統合後の活動活性化への変革の起点行事と連動させながら積極的に協力していく。

これらの議論事項についてはすべて決定事項ではなく、総会の決議をもって最終決定するものです。今後も大学側と話し合いを進めながら、ホームページにて話し合いの経過を報告してまいります。これらの件に関するご意見がございましたら、私ども役員へご連絡いただきますようお願い申し上げます。特に名簿の冊子による発行中止については、広く皆様のご意見を伺いたいと考えております。

最後になりましたが、長引く不景気もようやく出口が見え隠れするような状況において、同窓生の皆様にはますますご活躍のことと思います。今後とも皆様には同窓会の改革にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

..... 同窓会事業報告および予定（平成14年度～平成15年度）.....

1. 会報の発行

同窓会報第20号を平成14年12月に発行・発送しました。印刷部数は8500部、発行部数は7500部、残りは会報担当、事務局および各系役員にて保管用ならびに予備としました。

2. 卒業記念パーティーの開催

平成15年3月24日に豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会との共催で卒業記念パーティーを開催しました。当日は後藤同窓会会長が列席し、卒業・修了生へ祝辞を贈りました。平成15年度も例年通り行う予定です。

3. クラブ活動への援助

H14年度はロボコン同好会に5万円のクラブ奨励金を、陸上部、吹奏楽部にそれぞれ5万円のクラブ奨励金を贈りました。平成15年度はサッカー部に5万円のクラブ奨励金を、男子バレーボール部に5万円のクラブ奨励金を贈りました。

4. 技科大祭への援助

平成14年10月13日から14日にかけて盛大に行われた第25回技科大祭に対して、学友会を通じて10万円の資金援助を行いました。平成15年度も例年通り第26回技科大祭に対して10万円の資金援助を行いました。

5. 役員会の開催

平成15年4月19日に、豊橋技術科学大学G-208会議室にて役員会を開催し、本年度の活動予定などについて話し合いました。議事録は<http://www.tut-ob.org/gjjiroku/H15gjjiroku.pdf>をご覧ください。

平成15年度同窓会役員（平成15年9月現在）

会 長：後藤泰男（株式会社INAX）

副会長：佐藤裕久（豊橋技科大物質工学系）

事務局：感本広文（豊橋技科大機械システム工学系）

1系役員（admin-1@tut-ob.org, 事務局）	： 感本広文, 関下信正, 山本高久
2系役員（admin-2@tut-ob.org, 会報担当）	： 澁谷秀雄, 矢野賢一, 赤堀俊和, 森田繁樹, 戸高義一
3系役員（admin-3@tut-ob.org, 援助活動）	： 西村一寛, 稲田亮史, 桶真一郎
4系役員（admin-4@tut-ob.org, 会計担当）	： 野口健太郎, 福田浩士, 高橋港一
5系役員（admin-5@tut-ob.org, 総会・役員会担当）	： 大北博宣, 武藤浩行, 齊戸美弘
6系役員（admin-6@tut-ob.org, HP・ML担当）	： 谷 武, 細田智久
7系役員（admin-7@tut-ob.org, 名簿担当）	： 渋澤博幸, 加藤博明, 山田 実, 大谷真知子
8系役員（admin-8@tut-ob.org, 名簿担当）	： 南 亘
名誉顧問：西永 頌（豊橋技科大学長）	

会費の納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費（5000円）または、終身会費（10,000円）が未納の方は、該当する系の振込先へ納入下さいますようお願い申し上げます。

1系：郵便振込

口座番号 00830-1-133305
加入者名 豊橋技科大エネルギー工学同窓会

2系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 773671
加入者名 豊友会

3系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4系同窓会

4系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884432
加入者名 豊橋技術科学大学 3・4系同窓会

5系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 791362
加入者名 物質工学系同窓会

6系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 813330
加入者名 建設工学同窓会

7系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884420
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

8系：三井住友銀行 豊橋支店 普通預金

口座番号 884418
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局（TEL:0532-47-0111）へご一報くださるようお願い申し上げます。また、ホームページ上（<http://www.tut-ob.org/address.htm>）でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用ください。

クラブ活動への援助報告

今年度も、本学クラブ活動の活性化を支援する目的で、各クラブからの申請に基づき、クラブ奨励金とクラブ援助金（各1件）を以下のように決定し授与いたしましたのでご報告いたします。

クラブ奨励金：サッカー部 クラブ援助金：男子バレーボール部

サッカー部は、昨年度の東国体における創部以来初の第3位入賞をはじめ、各大会にて好成績を残しており本学プレゼンスの向上に寄与しております。また、男子バレーボール部は、連名登録料や大会遠征費、消耗品の大部分を自己負担しており、部員個人の負担が年々増加していること等を考慮して決定いたしました。会員の皆様にもご理解、ご協力をいただきながら、クラブ活動の活性化のために引き続き援助を行って参ります。（援助活動担当者一同）

サッカー部

建設工学専攻 修士1年 岩崎真志

サッカー部です。サッカーを愛する、修士3名、学部24名（マネージャー1人含む）が日ごろの練習に励んでおります。平日は毎日16時半から、土曜日は朝の10時からとほぼ毎日練習を行っています。

昨年は豊橋市の社会人リーグに加盟しておりました。私どものような大学のサッカー部は学生連盟に加盟するチームが多いのですが、部員の減少傾向が進んでおり、加盟費や試合の際の移動距離などの負担を減らすため、断腸の思いで学連の脱退を決意いたしました。そして新たな気持ちで迎えた社会人リーグだったわけですが、1年を通し、6戦全勝という好成績で終えることができ大変満足の一歩でした。東国体に至っては、例年の優勝校を初戦で破り、結果第3位というサッカー部創部以来の快挙を果たすことができました。

サッカー部は今、変わろうとしています。かつての弱小チームから、少なくとも弱くないチームへ。部員と話し合っ

た末に、今年から学連への再加盟を果たしました。社会人相手とは違い、なかなか思うような結果が得られていませんが、それでも1試合1試合を部員一同で必死に戦っております。

こんな私どもにご理解をいただき、援助をいただいたことに部員一同心より感謝しております。今後の活躍にご期待下さい。



男子バレーボール部

情報工学課程 4年 吉富利彦

この度は同窓会よりクラブ援助金を頂き、大変ありがとうございました。バレー部一同、心よりお礼申し上げます。現在私たちは修士16名、学部生25名の合計41名（内8名がマネージャー）で活動しています。今年は例年より多くの学部生が入部し、日々の練習も活気にあふれています。

年に2回大きな大会があります。春と秋の東海大学リーグです。そこでの優勝を目指して練習しているのですが、去年の春までリーグ最下位の6部から抜け出せない弱小チームでした。しかし、日々の練習に汗を流す間に部員達の心も1つにまとまり、ついに去年の秋期リーグで6部優勝することができました。さらに今年の春季リーグでは勢

いをそのままに、5部で3位になることができました。今の僕たちは今年の秋期リーグでの5部優勝が目標です。

大切に使用していますが、使用しているボールも大部分のものが古く、表面の皮が剥がれかかっている状態です。部員が増えた現在、1人に1つのボールもありません。しかし、選手の怪我・故障への懸念から薬品類購入を優先させなければなりません。その折にクラブ援助金を頂いたことは、ただ感謝するばかりです。同窓会より頂いた援助金は、ボールの購入等、備品の充実に当てさせて頂こうと思っております。

同窓会平成 14 年度収支報告および平成 15 年度予算案

項 目	平成 14 年度予算案	平成 14 年度決算	平成 15 年度予算案
■収入の部			
前年度繰越金	9,429,153	9,429,153	9,968,955
入 会 金	2,150,000	2,065,000	2,150,000
会 費	4,300,000	4,080,000	4,300,000
預 金 利 息	1,000	1,010	1,000
小 計	6,451,000	6,146,010	6,451,000
収 入 合 計	15,880,153	15,575,163	16,419,955
■支出の部			
会 報 経 費	907,920	920,000	930,000
(印 刷 代)	(900,420)	(910,000)	(920,000)
(原稿執筆御礼)	(60,000)	(10,000)	(10,000)
(会員以外への会報発送)	(1,500)	(0)	(0)
役 員 会 経 費	30,000	19,000	30,000
(役 員 手 当)	—	(19,000)	—
庶 務 経 費	100,000	36,648	100,000
技科大祭後援金	100,420	100,420	100,420
卒業記念パーティ援助金	250,420	250,420	250,420
クラブ活動資金援助	100,420	150,840	150,000
Web 関 連 経 費	47,880	47,880	47,880
各系への会費配分金	4,300,000	4,080,000	4,300,000
会費直接徴収手数料	—	1,000	—
小 計	5,837,060	5,606,208	5,908,720
次年度繰越金	10,043,093	9,968,955	10,511,235
支 出 合 計	15,880,153	15,575,163	16,419,955

＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
 (1) 会員名簿の発行
 (2) 会報の発行
 (3) 総会の開催
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。
 (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）
 (2) 会長 1名
 (3) 副会長 2名（庶務担当）
 (4) 理事 原則として各系2名
 (5) 顧問 若干名
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。
 第14条 理事会は次の事項を審議する。
 (1) 本会の事業の運営に関する事項
 (2) 事業報告及び決算報告
 (3) 事業計画案及び予算案
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項
 (5) その他、本会の運営に関する議案
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。
 (1) 会則の制定・改廃
 (2) 事業計画及び収支予算案
 (3) 事業報告及び収支決算案
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。
 (1) 入会金 5,000円
 (2) 終身会費 10,000円
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。



同窓会事務局より会員の皆様へのお願い

最近、本学同窓会会員に対して『各種の勧誘および問い合わせ』が頻繁になされているとの情報が入っております。特に『同窓生名簿』等の作成のための情報提供依頼等については、その名称が紛らわしくあたかも本学同窓会と関連がある様な誤解を招くもの、更には電話連絡の際に偽名を名乗っていると思われる悪質なもので発生しております。

本学同窓会事務局では、名簿データ等は厳重に管理しており、これまで部外者への名簿の譲渡や貸し出しは一切行っておりません。従いまして、これらの勧誘および問い合わせには本学同窓会事務局は一切の関係がないことをお断りしますとともに、会員の皆様におかれましても個人情報の管理には十分に御注意いただきます様、お願い申し上げます。

豊橋技術科学大学同窓会事務局